

年
報
37

年 報 37

2020年度
(令和2年度)

令
和
二
年
度

二
〇
二
一
・
十
二

山
梨
県
埋
蔵
文
化
財
セ
ン
タ
ー

2 0 2 1 . 1 2

山梨県埋蔵文化財センター

年 報 37

2020年度
(令和2年度)

2021.12

山梨県埋蔵文化財センター

序

本書は、2020(令和2)年度に山梨県埋蔵文化財センターが実施した史跡資料の活用業務と発掘調査等の調査研究業務の概要を報告するものです。

昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止を図るため、適切な感染防止対策を徹底した上で、各業務に取り組みました。

史跡資料の活用関係では、銚子塚古墳・丸山塚古墳、甲府城跡といった史跡資料を活用した各種イベントや、講座・講演会、学校への出前支援事業などを開催したところ、子どもから大人まで5万人を超える方々の参加をいただきました。

調査研究関係では、記録保存目的の本格的な発掘調査を福部遺跡(甲府市)、田通遺跡(甲府市)、旧利根川堤防遺跡(富士川町)、上三條河原遺跡(中央市)、新町前遺跡(市川三郷町)、二又第1・2遺跡(中央市)の7箇所で行いました。

この結果、近接する福部遺跡と田通遺跡では、中世のものと考えられる畑跡などが確認され、集落域であったことがわかりました。旧利根川堤防遺跡は、富士川町を流れる利根川の左岸に築かれた堤防跡です。上三條河原遺跡では古墳時代終末期の土器が1,300点以上見つかり、当時の集落であったことが想定されます。平成30年から継続して発掘調査を実施している新町前遺跡では、中世の水田や畑跡、平安時代の集落跡が発見されており、今回の発掘調査でも、集落の範囲や芦川の氾濫と戦いながら水田を造営していた様相が明らかになりました。二又第1・2遺跡では中世の土器を中心とした遺物が多数見つっていますが、現在も発掘調査を継続しており、更なる成果が期待されます。

また、整備事業に伴う調査としては、史跡甲府城跡で継続的に実施している石垣の定点観測を実施し、県内分布調査では、遺跡の有無を把握するための試掘調査を49件実施しました。

当センターでは今後も、史跡資料の保存活用、埋蔵文化財の調査研究、また、それらに係る情報の発信、学校や生涯学習の場を通じた普及活動等に取り組んで参りますので、埋蔵文化財の保護及び活用の取り組みに対し、一層の御理解と御協力をいただけますようお願いいたします。

2021年12月

目次

序文

凡例・2020年度発掘調査等遺跡位置図・組織図・職員組織

第Ⅰ章 史跡資料活用業務

ふるさとやまなし文化財歴史発見事業(国庫補助事業)

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1 県内埋蔵文化財の体験型活用事業 | 2 |
| 2 散策マップ作成とウォーキングイベント | 4 |
| 3 教育現場への支援事業 | 5 |
| 4 埋蔵文化財調査の成果公開のための展示会・シンポジウム・講演会等 | 6 |

県単独事業

- | | |
|---------------|----|
| 1 出張展示・体験イベント | 10 |
| 2 その他事業 | 10 |

第Ⅱ章 調査研究業務

発掘調査等

1 記録保存のための発掘調査

- | | |
|--------------|----|
| 1-1 旧利根川堤防遺跡 | 24 |
| 1-2 田通遺跡 | 26 |
| 1-3 福部遺跡 | 28 |
| 1-4 上三條河原遺跡 | 30 |
| 1-5 新町前遺跡 | 32 |
| 1-6 二又第1遺跡 | 34 |
| 1-7 二又第2遺跡 | 36 |

2 整備事業に伴う調査

- | | |
|----------------------|----|
| 2-1 史跡大丸山古墳 | 38 |
| 2-2 史跡甲府城跡(愛宕山石切場跡) | 40 |
| 2-3 史跡甲府城跡(県民会館跡地周辺) | 42 |
| 2-4 史跡甲府城跡石垣維持管理事業 | 44 |

3 県内分布調査

	46
--	----

第Ⅲ章 県内の概況

- | | |
|-----------------------------|----|
| 1 届出件数と内容 | 58 |
| 2 発掘調査 | 58 |
| 3 県・国指定有形文化財(考古資料)及び県・国指定史跡 | 58 |
| 4 発掘調査の成果と保存整備事業 | 58 |
| 5 発掘調査体制 | 59 |

凡 例

- 1 本書は、2020年度(令和2年度)の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
- 2 右記の地図は、2020年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、22・23頁の発掘調査の表に対応している。

2020年度 発掘調査等遺跡位置図



2020(令和2)年度 組織図・職員組織



所	長	佐久間 浩之
次	長(兼)	今 福 利 恵
次	長(兼)	三 枝 裕 幸

調 査 研 究 課		
課	長(兼)	今 福 利 恵
主幹・文化財主事		吉 岡 弘 樹
副主幹・文化財主事		宮 里 学
主査・文化財主事		深 澤 一 史
副主査・文化財主事		數 野 優
主任・文化財主事		久 保 田 健 太 郎
主任・文化財主事		御 山 亮 濟
専 門 員		高 野 玄 明
文 化 財 主 事		岩 永 祐 貴
文 化 財 主 事		内 田 祥 一
会 計 年 度 任 用 職 員		高 左 右 裕
会 計 年 度 任 用 職 員		田 中 一 仁

総 務 課		
課	長(兼)	今 福 利 恵
課	長(兼)	三 枝 裕 幸
副 主 査		塩 谷 慎 司
専 門 員		塚 脇 亮 一
主		後 藤 亮 太
会 計 年 度 任 用 職 員		菅 野 友 紀
会 計 年 度 任 用 職 員		原 未 帆

史 跡 資 料 活 用 課		
課	長	野 代 幸 和
主 査 ・ 文 化 財 主 事		依 田 幸 浩
主 査 ・ 文 化 財 主 事		長 田 猛
副 主 査 ・ 文 化 財 主 事		正 木 季 洋
主 任 ・ 文 化 財 主 事		上 野 桜
文 化 財 主 事		北 澤 宏 明
文 化 財 主 事		佐 賀 桃 子
文 化 財 主 事		中 村 有 希
会 計 年 度 任 用 職 員		小 池 準 一
会 計 年 度 任 用 職 員		中 込 実

第1章 史跡資料活用業務

ふるさとやまなし文化財歴史発見事業（国庫補助事業）

1 県内埋蔵文化財の体験型活用事業

番号	イ ベ ント 名	参加人数
1-1	マチナカ博物館	413
1-2	古墳でツアー	32
1-3	県民の日イベント 古墳ふしぎ発見	17
1-4	甲府城音楽教室	104

2 散策マップ作成とウォーキングイベント

番号	イ ベ ント 名	参加人数
2-1	ててっ！やまなし古墳・お宝マップ、私を古墳へつれてって4	37

3 教育現場への支援事業

番号	イ ベ ント 名	参加人数
3-1	古代を体験！授業作り研修会	中止
3-2	出前支援事業・考古資料貸し出し	859

4 埋蔵文化財調査の成果公開のための展示会・シンポジウム・講演会等

番号	イ ベ ント 名	参加人数
4-1	史跡甲府城跡稲荷権 常設展・甲府城模型おひろめ説明会	77
4-2	史跡甲府城跡鉄門（くろがねもん）展「アナタの知らない矢穴の世界」	13,493
4-3	遺跡調査発表会	111
4-4	知ろう山梨の歴史！山梨の遺跡発掘展2021	1,204
4-5	県立図書館連携展示	31,549

県単独事業

1 出張展示・体験イベント

番号	イ ベ ント 名	参加人数
1-1	マチナカ博物館（ラザウォーク甲斐双葉）	1,504

2 その他事業

番号	事 業 名	参加人数
2-1	発掘体験・遺跡見学会 史跡甲府城跡愛宕山石切場跡ほか	389
2-2	「山梨の遺跡発掘展2020」巡回展	2,112
2-3	広報誌「歴史やまなし」・研究紀要・年報	-
2-4	遺跡データ管理(GIS)	-
2-5	報告書リポジトリ	-
2-6	埋蔵文化財センター・考古博物館北収蔵施設	-
2-7	寄贈・購入図書	-
2-8	出張講座等	450
2-9	収蔵資料貸し出し及び掲載許可一覧	-

合 計		52,241
-----	--	--------

ふるさとやまなし文化財歴史発見事業（国庫補助事業）

1 県内埋蔵文化財の体験型活用事業

1-1 マチナカ博物館

芸術性の高さが国内、国外問わず評価されている山梨県の縄文土器の魅力を発信するため、山梨県立図書館、山梨県立リニア見学センターにおいて出張展示を行い、縄文土器の人気投票を開催した。

○マチナカ博物館 in 山梨県立図書館

日時：2020年8月12日（水）・13日（木） 10:00～16:00

対象・参加人数：幼児・小中学生・一般 169名

内容：県内から出土した縄文土器のほか、黒曜石製石器、日本遺産の解説パネルを展示し、その魅力を解説した。また、県内から出土した縄文土器115点が掲載された「なんてったってJOMON。」を配布し、「芸術部門」と「キャラクター部門」の2つの部門を設けて人気投票を開催した。



縄文土器人気投票の様子



日本遺産の解説の様子

○マチナカ博物館 in 山梨県立リニア見学センター —古代から未来へのメッセージ—山梨リニア実験線建設の足跡—

会期：2020年9月26日（土） 10:00～16:00

対象・参加人数：幼児・小中学生・一般 244名

内容：リニア実験線の運転予定日にあわせて、実験線建設に伴って出土した本物の縄文土器等を展示した。県内外の方々に埋蔵文化財を鑑賞する機会を提供するとともに、最新技術のリニアモーターカーと古代技術の対比により観光資源としての山梨の埋蔵文化財の魅力を発信した。



展示を鑑賞する来場者



日本遺産パネルと黒曜石展示

1-2 古墳でツアー

開催日:2020年10月18日(日) (10:30~12:00、13:15~14:45、14:00~15:30)

対象・参加人数:小中学生・一般 32名

会場:山梨県立考古博物館、史跡鏡子塚古墳附丸山塚古墳、甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園

内容:史跡鏡子塚古墳附丸山塚古墳や甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園内にある古墳をめくり、地域の歴史に楽しんでもらうことを目的として実施した。イベントでは専門職員が古墳にちなんだクイズを出題するなど楽しみながら学べる機会とした。また、古墳の出土品等を展示する考古博物館でも展示解説を実施した。子どもにも楽しみながら参加してもらうために、分かりやすく面白いクイズにするといった工夫を凝らした。そのため子どもから大人まで楽しみながら学んでいただけのイベントとなり、県内の埋蔵文化財について知っていただく良いきっかけとなった。



鏡子塚古墳の解説



丸山塚古墳の解説

1-3 県民の日イベント 古墳ふしぎ発見

日時:2020年11月20日(金)

対象・参加人数:未就学児・小学生・中学生・高校生・一般 17名

会場:風土記の丘・曾根丘陵公園

内容:甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園内に群在する国指定史跡鏡子塚古墳附丸山塚古墳などの古墳の価値を広く周知することを目的に、各古墳の出土品や調査成果について、クイズラリー形式で説明し、山梨の古墳時代についての理解を深めた。



馬具の説明



考古博物館構内古墳の説明

1-4 甲府城青空教室

開催日:2020年9月24日(木)、2021年1月28日(木)

対象・参加人数:小・中学生 104名

会場:史跡甲府城跡

内容:県内外の学校の校外学習を対象に、甲府城に訪れる小～大学生を対象とした。2019年2月に国史跡に指定された甲府城跡の歴史や価値、野面積石垣の技術や価値について、実際に甲府城内を歩きながら解説した。



甲府城青空教室

2 散策マップ作成とウォーキングイベント

2-1 ててっ!やまなし古墳・お宝マップ、私を古墳へつれてって4

日時:2020年4月1日(水)～2021年2月21日(日)

内容:埋蔵文化財への興味を深め、郷土愛を育むきっかけを提供するために、平成30年度から令和2年度までの3ヶ年間、地域の埋蔵文化財をウォーキングしながら学習できるガイドマップを作成している。令和2年度は甲府盆地北西地域を対象に、遺跡や出土品を取り上げたウォーキングマップを作成し、マップの配布とマップに基づいたウォーキングイベントを実施した。

①ウォーキングマップ「ててっ!やまなし古墳・お宝マップ3～甲府盆地北西部編～」の作成

甲府盆地北西部は、南アルプス市の物見塚古墳、甲斐市の赤坂台古墳群など古墳時代中期から後期にかけての古墳が多く所在する地域である。また、史跡甲府城跡やその城下町、日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」に選定された遺跡なども所在する、県内でも見所の多い地域の一つである。そのなかでも現在見ることのできる古墳などを中心に、遺跡を紹介した埋蔵文化財のウォーキングガイドマップを作成した。

②文化財ウォーキングイベント「私を古墳へつれてって4～甲府市湯村・千塚の古墳めぐり～」

日時:2021年2月21日(日)9:00～15:30

参加人数:小学生から一般 37名

内容:作成したウォーキングマップに基づいて、加牟那塚古墳、万寿森古墳、塩澤寺など甲府市湯村・千塚地域の文化財をめぐるウォーキングを行った。古墳や遺跡の立地、景観などについて解説し、実際に出土品を見学して地域の文化財について理解を深めた。



ててっ!やまなし古墳・お宝マップ3
～甲府盆地北西部編～



加牟那塚古墳石室の解説



万寿森古墳見学の様子

3 教育現場への支援事業

3-1 古代を実体験！授業作り研修会

日時：2020年8月4日(火)

内容：県内の公立学校教員が、「社会科」や「総合的な学習の時間」の授業教材として当センターが所蔵する考古資料の適切な取り扱い方、授業への活用方法について学ぶ研修会を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う休校措置の影響もあり、申込者が少なく今年度は実施を見送った。

3-2 出前支援事業・考古資料貸し出し

日時：通年

対象・人数：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・学校教育に類する事業を行う団体、延べ859名

内容：当センターでは、県内で育つ子どもたちが、郷土の歴史に親しみ、理解を深めるため小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・学校教育に類する事業を行う団体と連携し、考古資料を活用した次の2事業を行っている。

①出前支援事業

目的：当センター職員が学校等へ赴き、授業を支援する取り組み。

内容：縄文土器作り・勾玉作り・火起こし体験・講話

②考古資料貸出

目的：土器や石器をはじめとする考古資料を学校等に貸し出し、生徒が発掘された本物の資料に触れることで、より深い理解を提供することを目的とする。

内容：縄文土器から平安時代までの土器及び石器、古墳出土のガラス玉や近世のキセルなどを貸し出しケースに収納した貸出キットの中から、申請者が希望するものを貸し出す。



出前支援事業（縄文土器作り）

4 埋蔵文化財調査の成果公開のための展示会・シンポジウム・講演会等

4-1 史跡甲府城跡稲荷槽 常設展・甲府城模型おひろめ説明会

会期：2020年5月23日(土)～2021年3月31日(水)

おひろめ説明会：2021年3月14日(日)

対象・参加人数：小中学生・一般

おひろめ説明会：小中学生・一般 77名

会場：史跡甲府城跡 稲荷槽

内容：稲荷槽で実施している常設展では、甲府城跡および甲府城下町遺跡を紹介するパネル展示や石垣補修事業についての解説パネル展示等を実施している。甲府城跡では、調査で出土した遺物(瓦や釘など)や石垣の築造に使われる石工道具の展示を行い、甲府城下町遺跡では、出土品を発掘調査成果の解説パネルとともに展示している。また、本年度は、稲荷槽2階の甲府城復元模型を最新の調査成果を元に改修を行い、3月14日におひろめ説明会を実施した。



甲府城模型おひろめ説明会の様子

4-2 史跡甲府城跡鉄門(くろがねもん)展「アナタの知らない矢穴の世界」

会期：2020年7月4日(土)～通年

対象・参加人数：幼児・小中学生・一般

会場：史跡甲府城跡 鉄門

内容：史跡甲府城跡は、野面積石垣が良好な状態で残る国内でも有数の近世城郭として評価されている。例年信玄公祭りにあわせて甲府城鉄門及び稲荷槽で甲府城の価値をテーマにした展示会を開催することで、県民の甲府城跡に対する正しい理解と興味・関心を高める機会としている。本年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、パネルの常設展示のみを行った。本年度は、甲府城跡の魅力の一つである石垣の中で「矢穴」に注目し、甲府城跡を散策する際の見どころを紹介するパネル展示を行った。また、甲府城跡矢穴マップを作成・配布し、ホームページでも公開した。



史跡甲府城跡鉄門展の様子

4-3 遺跡調査発表会

開催日：① 2020年10月24日(13時00分～15時00分)

② 2021年 3月13日(13時00分～15時00分)

対象・参加人数：一般 ①47名、②64名

会場：①帝京大学山梨文化財研究所大ホール、②風土記の丘研修センター講堂

内容：本県では、当センターや市町村教育委員会が主体となって各地で発掘調査が進められている。このような発掘調査の最新成果について、県民にいち早く情報発信し、郷土の歴史や埋蔵文化財への認識を深めていただくために例年山梨県考古学協会と共催で実施している。

遺跡調査発表会は、最新の発掘調査成果を一般の方々に向けて発信することができる良好な機会であり、埋蔵文化財に対する理解と郷土への歴史認識を深めてもらうとともに、文化財保護・活用への理解を高める機会となった。

① 2020(令和2)年度遺跡調査発表会(2020年10月24日)

令和2年3月14日に実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大予防のために延期した内容を発表した。

馬場平遺跡(甲州市)	山梨県埋蔵文化財センター 岩永祐貴
金山林遺跡(山梨市)	(公財)山梨文化財研究所 宮澤公雄
御岳田遺跡(第10次)(甲斐市)	甲斐市教育委員会 塩谷風季
青木東田遺跡(韮崎市)	韮崎市教育委員会 半澤直史

② 2020(令和2)年度遺跡調査発表会(2021年3月13日)

藤崎岡遺跡(大月市)	昭和測量株式会社 小谷亮二
中山工区内遺跡(北杜市)	北杜市教育委員会 渡邊泰彦
福部遺跡(甲府市)	山梨県埋蔵文化財センター 内田祥一
史跡新府城跡(韮崎市)	韮崎市教育委員会 関間俊明



馬場平遺跡の発表の様子



中山工区内遺跡の発表の様子

4-4 知ろう山梨の歴史!山梨の遺跡発掘展2021

会期:2021年3月13日(土)~4月11日(日)

会場:山梨県立考古博物館 企画展示室

対象・参加人数:一般 1,204名

内容:2020年度に山梨県内で実施された発掘調査(県教育委員会、市町村教育委員会および民間団体も含む)の成果の概要を写真パネルや出土遺物の展示により、わかりやすく広く一般県民に紹介する展示会である。同時に県埋蔵文化財センターが実施した普及活動の成果や武田信玄生誕500周年を記念した武田氏関連遺跡展示を実施した。

I. 最新情報(県埋蔵文化財センター)

上三條河原遺跡(中央市:古墳・平安)、新町前遺跡(市川三郷町:平安・中世)、福部遺跡(中央市:中世)、田通遺跡(中央市:中世)、二又第1・2遺跡(中央市:中世)、田利根川堤防遺跡(富士川町:近世・近代)、県内分布調査(県内各地)

II. 最新情報(各市町村教育委員会等)

藤崎岡遺跡(大月市:縄文)、姥神遺跡(北杜市:縄文)、音羽遺跡(甲府市:古墳・奈良・平安)、金山遺跡(富士河口湖町:古墳・平安)、中山工区内遺跡(北杜市:平安)

III. 史跡を活かす・伝える

国史跡甲府城跡(県民会館跡地周辺)(甲府市:近世)、国史跡甲府城跡(愛宕山石切場跡)(甲府市:近世・近代)、国史跡甲府城跡石垣維持管理事業(甲府市)、国史跡大丸山古墳災害復旧事業(甲府市)

IV. 特別展示 信玄公生誕500周年記念武田氏関連展示

国史跡武田氏館跡(味噌曲輪地点)(甲府市:中世・近世)、国史跡新府城跡(韭崎市:中世・近世)



会場の様子



会場の様子



姥神遺跡



金山遺跡

4-5 県立図書館連携展示

内容：山梨県内の方々に日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」、ウォーキングマップ「ててっ!やまなし古墳・お宝マップ」についで取り組みを広く周知し、埋蔵文化財への興味を呼び起こすきっかけとするため、山梨県立図書館にパネルを展示し、チラシや冊子を配布した。また、県立図書館が山梨県の遺跡や出土品に関する書籍を展示し、貸し出した。

①連携展示「日本遺産～星降る中部高地の縄文世界～」

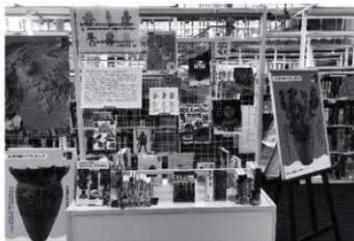
日時：2020年8月29日(土)～9月13日(日)

参加人数：15,586名

②連携展示「古墳めぐりはじめました」

日時：2021年1月27日(水)～2月11日(祝・木)

参加人数：15,963名



「日本遺産～星降る中部高地の縄文世界～」の展示の様子



「古墳めぐりはじめました」の展示の様子

県単独事業

1 出張展示・体験イベント

1-1 マチナカ博物館(ラザウォーク甲斐双葉)

芸術性が高いと国内、国外問わず評価されている山梨県の縄文土器の魅力を発信するため、出張展示を行い、縄文土器の人気投票を開催した。

日時：2020年10月3日(土)・4日(日) 10:00～16:00

対象・参加人数：幼児・小中学生・一般 1,504名

内容：縄文土器の出張展示や日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」のPR展示、山梨県立図書館や山梨県立ニア見学センターに引き続き縄文土器の人気投票を実施した。

商業施設でのイベントは、たまたま買い物に来た方々にも文化財に興味をもっていただけの良いきっかけの場となった。



イベントの様子



縄文土器の人気投票の様子

2 その他事業

2-1 発掘体験・遺跡見学会

(1) 史跡甲府城跡愛宕山石切場跡 遺跡見学会

開催日：2020年10月25日(日)

対象・参加人数：幼児、小中学生から一般 47名

内容：史跡の内容確認のための試掘調査を実施した愛宕山石切場跡は、甲府城に関係する非公開の石切場跡であり、日頃から県民の関心が高い。調査成果を一般に広く知ってもらい、甲府城及び城下町への理解を深めるため、遺跡見学会を開催した。現地に残る採石の痕跡や発掘調査で見つかった近代の庭園の痕跡等を公開した。また、近代の石工道具の展示・説明を行い、甲府城跡及び石切場跡の歴史を学ぶ機会とした。



史跡甲府城跡愛宕山石切場跡の見学の様子

(2) 落ち葉でやきいも！

開催日：2020年11月23日（祝・月）

対象・参加人数：幼児から一般 162名

内容：風土記の丘の落ち葉清掃と合わせて園内の古墳や遺跡の見学会を実施した。

(3) 新町前遺跡 現場公開

開催日：2021年2月14日（日）

対象・参加人数：幼児、小中学生から一般 110名

内容：県立青洲高等学校の屋内運動場建設に伴う新町前遺跡（第3次）の発掘現場において、地元の市川三郷町民を中心に調査中の遺跡見学を通して、埋蔵文化財の理解を深めるとともに地域の歴史を知る機会とした。

(4) 二又第1遺跡 現場公開

開催日：2021年3月14日（日）

対象・参加人数：幼児、小中学生から一般 70名

内容：中央新幹線に係る保守点検基地の建設に伴う二又第1遺跡の発掘調査現場において、現場の公開および調査担当者による調査成果の説明会を実施した。地元の中央市民を中心に、発掘調査中の遺跡の見学を通じて発掘調査現場のようすや埋蔵文化財の保護への理解促進、地元の歴史や文化財への興味関心の醸成を図る場とした。



新町前遺跡の見学の様子



二又第1遺跡の見学の様子

2-2 「山梨の遺跡発掘展2020」巡回展

2020年3月14日（土）～4月12日（日）に開催する予定であった「山梨の遺跡発掘展2020」で作製した各遺跡の調査成果のパネルを県内下広く貸し出し、埋蔵文化財に対する理解と郷土への歴史的認識を深めた。

①甲斐黄金村・湯之奥金山博物館：甲斐黄金村・湯之奥金山博物館1階エントランスホール

日時：2020年9月12日（土）～9月22日（祝・火）

参加人数：938名

②甲府市教育委員会：甲府市役所本庁舎1階市民活動室

日時：2020年10月29日（木）～11月3日（祝・火）

参加人数：546名

③中央市豊富郷土資料館：1階企画展示室

日時：2021年1月16日（土）～2月7日（日）

参加人数：628名



甲斐黄金村・湯之奥金山博物館での展示の様子

2-3 広報紙「埋文やまなし」・研究紀要・年報

(1) 広報紙「埋文やまなし」第63号・第64号の刊行

第63号

○特集 日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」・原埋蔵文化財センターがお手伝いします！・発掘調査速報
日本遺産のストーリーや日本遺産構成文化財である酒呑馬遺跡や一の沢遺跡など当センターが発掘調査を行った遺跡を紹介した。また、学校などの教育施設で実施している出前支援事業や、ウォーキングマップの紹介、発掘調査速報として旧利根川堤防遺跡を紹介した。

第64号

○特集 発掘調査を支える人々・アナタも発掘してみませんか？・文化財活用イベント
当センターが調査した遺跡や発掘調査の方法、発掘作業員の道具や服装などを紹介した。また、発掘作業員の募集、今年度実施した史跡・資料の活用イベントを紹介した。

(2) 研究紀要37・年報36の刊行

職員の研究論考等をまとめた研究紀要37と埋蔵文化財センターの2019年度の事業をまとめた年報36を刊行した。

2-4 遺跡データ管理 (GIS)

2020年度の遺跡管理システム(Geographic Information System)に登録した遺跡の発見や範囲の変更は10件であった。内訳は新規の遺跡発見6件(1.甲府市福部遺跡 2.甲府市田通遺跡 3.北杜市多屋下遺跡 4.北杜市大平遺跡 5.北杜市肥道D遺跡 6.山梨市堂城遺跡)。遺跡の範囲変更修正が4件(1.南アルプス市寺部村附第14遺跡 2.南アルプス市東畑下遺跡 3.山梨市上コブケ遺跡 4.中央市二又第1遺跡)であった。

2-5 報告書リポジトリ

2019年度までに第325集までの調査報告書を実施している。今年度は、調査報告書第326・327集と年報36の3冊と、広報紙「埋文やまなし」第60号から第64号のPDFデータを(独)国立文化財機構奈良文化財研究所の「全国遺跡報告総覧」に提供した。

2-6 埋蔵文化財センター・考古博物館北収蔵施設

遺物等の資料を保管している北収蔵施設では、今年度大規模な資料の保管状況確認作業を行い、遺物管理台帳の整理統合及び遺物等の資料点検作業のマニュアル整備などを行った。現在、北収蔵施設には遺物の入った収納箱が1万6千箱以上あり、これらの適切な管理に向けてこれからも点検作業や台帳整備を定期的に行っていく。

2-7 寄贈・購入図書

図書は、毎年度、約2000～3000冊が寄贈・購入されている。寄贈図書の内容は、全国の都道府県・市町村教育委員会から送付される発掘調査報告書、年報、研究紀要、博物館・資料館等の企画展図録などである。その他にも業務に関する考古学や歴史の専門書・学術雑誌を購入している。

2020年度は、2271冊の図書を登録し、専門書・学術雑誌の購入は24冊である。総登録数、約111518冊に大塚文庫約11,000冊を加えると約122518冊が収蔵されていることになる。登録された収蔵データは、図書データベース(マイクロソフト社データベースソフトアクセス)で管理し、蔵書の検索もできるようにしている。2013年度からは、使用頻度が低いと思われる図書や重複している図書を、埋蔵文化財センター・考古博物館北収蔵施設へ搬出・整理(台帳制作)しているが、依然として閲覧スペースを含めた収蔵スペースの確保・整理が大きな課題となっている。

2-8 出張講座等

会期：通年

内容：山梨県埋蔵文化財センターでは、県民が郷土の歴史に親しみ理解を深めるため、各種団体からの依頼を受け、各種イベント・講演会に職員を派遣し、その地域・テーマに沿った最新の埋蔵文化財成果の普及講座を行っている。本年度は4件340名に対し講演活動を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により講演会等の開催を見合わせる団体が多く、講演の依頼は例年より少なかった。

いずれも各地域・テーマに沿った題材について、最新の埋蔵文化財調査成果を座学だけでなくフィールドワークなども取り入れてわかりやすく説明し、地域の歴史教育を支援するほか、県民の地域への誇り・愛着を持つきっかけ作りの機会となった。

①県政出張講座：増穂小学校

日時：2020年8月28日

参加人数：120名

②県政出張講座：南アルプスライオンズクラブ

日時：2020年10月25日

参加人数：55名

③山梨大学連携講座

日時：2021年2月6日～8日・11日

参加人数：のべ110名

④県政出張講座：市川中学校

日時：2021年2月26日

参加人数：55名



県政出張講座の様子

2-9 収蔵資料貸し出し及び掲載許可一覧

収蔵資料、収蔵画像資料・掲載の許可、古代衣装の貸し出し、名義後援の一覧を14ページ～21ページに示す。

収蔵資料貸し出し一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
1	4.1～3.31	県立北杜高等学校	郷土教育に活用するため	原町農業高校前遺跡	縄文土器 15 点
2	4.1～3.31	山梨中銀金融資料館	貨幣史コーナーに常設展示するため	金の尾遺跡	弥生土器 1 点
				花鳥山遺跡	石器 10 点
				米倉山 B 遺跡	貨幣 1 点
				東山北遺跡	水晶原石 1 点・水晶製勾玉 1 点
3	4.1～3.31	宝石美術専門学校	ジュエリーミュージアムにて常設展示のため	甲ヶ原遺跡	水晶原石 1 点
				大木戸遺跡	水晶製石鏝 1 点・珠状耳飾り 1 点
				美通遺跡	珠状耳飾り 1 点
				塩瀬下原遺跡	垂飾 1 点
				頭無遺跡	大珠 1 点
				金の尾遺跡	垂飾 1 点・管玉 1 点
				四ツ塚古墳群	メノウ製勾玉 1 点
				双葉 2 号墳	水晶製切子玉 3 点
				考古博物館橋内古墳	石製勾玉 3 点・丸玉 16 点
				米倉山 B 遺跡 1 号墳	碧玉製管玉 2 点
4	4.1～3.31	山梨平和ミュージアム	常設展示のため	塩部遺跡	焼夷弾 2 点・焼夷弾彈頭 1 点
5	4.1～3.31	北杜市教育委員会	北杜市考古資料館において常設展示のため	横針前久保遺跡	石器 25 点
				天神遺跡	縄文土器 12 点・土偶 1 点・石器 37 点
				柳坪遺跡	縄文土器 1 点
				寺所遺跡	縄文土器 1 点・土師器 6 点
				城下遺跡	灰釉陶器 1 点・緑釉陶器 1 点・土師器 1 点・石器 2 点
				東原遺跡	羽 13 点・土器 1 点・石器 1 点
6	4.1～3.31	山梨市フルーツパーク(株)	「甲州果物発展史」コーナーに常設展示するため	大師東丹保遺跡	クルミ 16 点・カヤ 3 点・トチ 1 瓶・モモ種子 7 点
7	4.1～3.31	南アルプス市教育委員会	ふるさと文化伝承館に常設展示のため	百々遺跡	土器ほか 21 点
				横福遺跡	土器ほか 119 点
				大師東丹保遺跡	植物遺存体一式
				宮沢中村遺跡	植物遺存体一式
8	4.1～3.31	総務部管財課	防災新館石垣展示室に展示のため	甲府城跡	駒木 6 点

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
9	4.1～3.31	県立博物館	常設展示のため	原町農業高校前遺跡	縄文土器1点・土器片など9箱
				酒呑場遺跡	石器52点
				塩部遺跡	馬骨12点
				大師東丹保遺跡	形代2点
				地耕面遺跡	斉申4点
				鯉沢河岸跡	生活用具等194点
				甲府城跡	鏡瓦1点・瓦3点・輪宝2点・ワイン瓶5点
10	4.1～3.31	大月市教育委員会	大月市郷土資料館において常設展示のため	塩瀬下原遺跡	土偶2点・石鎌6点・縄文土器2点・石皿1点
				大月遺跡	縄文土器5点
11	4.1～3.31	国立大学法人山梨大学	山梨県の文化振興の推進及び文化を通じた教育支援のため	宮の前遺跡	縄文土器1点
12	4.1～3.31	国立歴史民俗博物館	総合展示第1展示室にて常設展示のため	花鳥山遺跡	縄文土器1点
13	6.4～9.15	帝京大学文化財研究所	研究のため	花鳥山遺跡	石器1431点
14	7.1～12.18	北杜市教育委員会	八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン資料館連携事業 三館共同企画展「揺る揺る探る～山麓の縄文食～」に展示のため	柳坪遺跡	縄文土器1点
				川又坂上遺跡	縄文土器1点
15	9.7～11.30	十日町市博物館	秋季特別展「縄文の遺産～雪降る縄文と星降る縄文の鏡演～」に展示のため	一の沢遺跡	縄文土器1点
				酒呑場遺跡	石製装飾品1点
				原町農業高校前遺跡	土偶1点
				大月遺跡	ヒスイ製大珠1点
16	9.14～9.30	帝京大学文化財研究所	研究のため	亀甲塚古墳	銅鏡1点・管玉53点
17	10.9～2.28	釈迦堂遺跡博物館	秋季特別展「森の向こうに見えた村」に展示のため	大木戸遺跡	縄文土器5点・土偶1点
18	10.24～12.7	山梨県立博物館	開館15周年記念特別展「未来へ伝えたい 甲斐の国のたからもの～新指定文化財・収蔵品展～」に展示のため	酒呑場遺跡	縄文土器4点
				安道寺遺跡	縄文土器1点
				上中丸遺跡	複製10点
				甲斐鏡子塚古墳	木製品6点
				甲府城跡	飾瓦3点・輪宝1点
				小井川遺跡	五輪塔2点
19	1.7～3.26	神奈川県教育委員会	令和2年度かながわの遺跡展において展示のため	関山遺跡	縄文土器1点

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
20	1.16 ~ 2.26	帝京大学文化財研究所	研究のため	獅子之前遺跡	石器・剥片・原石 904点
21	3.30 ~ 2021.6.21	釈迦堂遺跡博物館	企画展「みずけむり～山梨県の水埴文土器～」に展示のため	甲っ原遺跡	縄文土器 1点
				酒呑場遺跡	縄文土器 2点
				原町農業高校前遺跡	縄文土器 1点
				宮の前遺跡	縄文土器 1点
				上野原遺跡	縄文土器 1点
				塩瀬下原遺跡	縄文土器 1点
				一の沢遺跡	縄文土器 3点

収蔵画像資料の貸し出し・掲載許可一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
1	4.2	コウフシンボル 500 制作委員会	冊子「コウフシンボル 500」へ掲載するため	一の沢遺跡	土偶 1点
2	4.3	NPO法人むきぼんだ応援団	WEB サイト【全国子ども考古学教室】(kids-kouka.com)に掲載するため	横針前久保遺跡	局部磨製石斧 1点
				殿林遺跡	深鉢形土器 1点
				岡道跡	容器形土偶 2点
				鳥居原塚古墳	青銅鏡複製 1点
				丘の公園第 2 遺跡	調査時写真 3点
				金の尾遺跡	土器写真 1点・調査時写真 1点
				鏡子塚古墳	出土品写真・空撮写真等
				上の平遺跡	出土品写真・調査時写真等
一の沢遺跡	出土品写真・調査時写真等				
3	4.7	茅野市実石縄文考古館	パネル展「日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」」において展示のため	殿林遺跡	深鉢形土器 1点
4	4.8	株式会社同成社	中山誠二著「マメと縄文人」に掲載するため	酒呑場遺跡	縄文土器片 1点・レプリカ SEM 写真 3点
5	4.17	株式会社山梨放送	「海と日本プロジェクト in やまなし」にて TV 放映・Youtube 配信のため	釈沢河岸跡	マグロ骨一式
6	5.12	株式会社吉川弘文館	富士山考古学研究会編「富士山噴火の考古学」に掲載のため	山本寿々雄コレクション	写真 1点
7	5.13	山梨県埋蔵文化財センター	鉄門展パンフレットに掲載するため	甲府城跡	調査時写真 4点
8	5.19	株式会社新泉社	新津健著「シリーズ「遺跡を学ぶ」146「金生遺跡」」に掲載するため	安道寺遺跡	深鉢形土器 1点
				天神遺跡	ヒスイ製大珠 1点
9	5.26	植月学	論文「笛吹市地耕免遺跡のウマ遺体」[山梨県考古学協会誌] 27号への掲載のため	地耕免遺跡	土器 3点・動物遺体 36点

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
10	5.29	世界ミステリーチャンネル	Youtube 配信のため	考古博物館	館内の土器等
11	5.30	山梨県造形教育研究会	中学校美術科副読本「美術資料山梨の美術」に掲載のため	考古博物館	内観写真1点
12	6.10	北杜市教育委員会	ハヶ岳定住自立圏共生ビジョン資料館連業事業共同企画展「掘る探る掘る～山麓の縄文食～」に展示のため	酒呑場遺跡 酒呑場遺跡	レプリカ SEM 写真3点 石孔罎付土器1点
13	6.24	大月市教育委員会	「藤崎岡遺跡発掘調査報告書」への掲載のため	大石遺跡	調査時写真9点
14	7.1	積石塚・渡来人研究会	積石塚・渡来時研究会第8回研究会例会案内チラシに掲載するため	金の尾遺跡	調査時写真1点
15	7.7	株式会社吉川弘文館	設楽博己著「顔の考古学(仮題)」に掲載するため	岡遺跡	容器形土偶2点
16	7.7	山梨県埋蔵文化財センター	イベント「マチナカ博物館」におけるパネル展示のため	甲ヶ原遺跡	縄文土器6点
				上野原遺跡	縄文土器3点
				上の平遺跡	縄文土器1点
				海道前C遺跡	縄文土器4点
				安道寺遺跡	縄文土器3点
				原町農業高校前遺跡	縄文土器3点・原石1点
				一の沢遺跡	縄文土器10点
				大木戸遺跡	縄文土器2点
				重郎原遺跡	縄文土器1点
				上コブケ遺跡	縄文土器1点
				殿林遺跡	縄文土器1点
				天神遺跡	縄文土器2点
				塩瀬下原遺跡	縄文土器1点
				中谷遺跡	縄文土器2点
				金生遺跡	縄文土器1点
				宮の前遺跡	縄文土器2点
酒呑場遺跡	縄文土器25点				
柳坪A遺跡	縄文土器1点				
川又坂上遺跡	縄文土器2点				
原町農業高校前遺跡	縄文土器1点				
立石遺跡	縄文土器1点				
17	7.9	大阪府立弥生文化博物館	令和2年度秋季特別展「弥生農耕―田んぼとはたけ―」に展示のため	天神遺跡	縄文土器片4点
				酒呑場遺跡	縄文土器片3点
				中谷遺跡	縄文土器片2点
18	7.16	仲田道弘	仲田道弘著、創森社刊「日本ワインの夜明け」に掲載するため	甲府城跡	ワイン瓶写真1点

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
19	7.17	山梨県埋蔵文化財センター	「理文やまなし」第63号に掲載するため	安道寺遺跡	縄文土器2点・調査時写真5点
				一の沢遺跡	縄文土器1点・調査時写真2点
				天神遺跡	ヒスイ製大珠1点・石匙1点・調査時写真2点
				酒呑場遺跡	調査時写真2点
				原町農業高校前遺跡	調査時写真3点
20	7.21	株式会社朝日カルチャーセンター	講座の広報宣伝媒体に掲載のため	岡道跡	容器彩土偶2点
21	7.27	山梨県観光文化振興・文化財課	「史跡甲府城跡保存活用計画書」に掲載するため	甲府城跡	擬宝珠1点
22	8.11	株式会社育聯社	宮崎正弘著「一万年の平和、日本の代償」に掲載のため	海道前C遺跡	縄文土器1点
				柳坪遺跡	土偶1点
				安道寺遺跡	土偶1点
				一の沢遺跡	土偶1点
				金生遺跡	土偶複製1点
23	8.6	甲府信用金庫竜王支店	甲府信用金庫甲斐市店の新規開店に伴う甲斐市内道跡の展示パネル掲載のため	金の尾遺跡	調査時写真2点
24	9.2	山梨日日新聞社	山梨日日新聞 小中学生新聞「週間こびっと」に掲載のため	一の沢遺跡	土偶1点
				甲斐銚子塚古墳	埴輪3点
				考古博物館	内観写真4点
25	9.3	株式会社山梨放送	やまなしレトロモダン「ふるさとが紡いだ物語」にて放映のため	考古博物館	内観・外観等撮影品
26	9.4	富士観光開発・富士グリーンテックグループ	イベント用パンフレットに掲載のため	甲斐銚子塚古墳	埴輪3点
				丸山塚古墳	青銅鏡複製1点
				上の平遺跡	土器集合写真1点
27	9.8	株式会社テレビマニユニオン	NHK Eテレ「先人たちの底力 知恵泉」で放映のため	岡道跡	容器彩土偶2点
				津金御所前遺跡	縄文土器複製1点
				身洗沢遺跡	木製農具一式
				油田遺跡	木製農具一式
				東山北遺跡	炭化米・壺一式
28	9.16	山梨県埋蔵文化財センター	イベント「マチナカ博物館」におけるパネル展示のため	殿林遺跡	縄文土器1点
				中谷遺跡	縄文土器1点・土偶複製1点
				原町農業高校前遺跡	黒曜石1点
				一の沢遺跡	土偶1点
				天神遺跡	縄文土器1点
				上の平遺跡	縄文土器1点

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
29	9.15	ダイレクト出版株式会社	田中英道「日高見国は関東にあった」において配信のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
30	9.20	一般社団法人やまなし城郭研究協会	「甲府城石垣見どころ紹介パンフレット」・「甲府城ガイドブック(仮称)」に掲載するため	甲府城跡	甲府城跡航空写真1点
31	9.25	ブログ「土偶でDABADA」	ブログ「土偶でDABADA」に掲載のため	桂野遺跡	土偶1点
				甲ッ原遺跡	土偶1点
				北瀬遺跡	土偶1点
				安道寺遺跡	土偶1点
				大木戸遺跡	土偶1点
				酒春場遺跡	土偶1点
				原町農業高校前遺跡	土偶1点
				金生遺跡	土偶1点・土偶複製1点
32	9.25	株式会社山川出版社	「中学歴史日本と世界」に掲載のため	天神遺跡	ヒスイ製大珠1点
33	9.29	福高市	じょもびあ宮畑施設ガイドブックに掲載のため	殿林遺跡	縄文土器1点
34	10.5	山梨県造形教育研究会	中学校美術科副読本「美術資料」に掲載のため	一の沢遺跡	縄文土器1点
35	10.12	山梨県産業労働部産業振興課	山梨県ジュエリーマスター認定試験受験者に配布するテキストに掲載するため	大木戸遺跡	水晶製石鏝1点
36	10.23	静岡県経営管理本部総務局法務文書課	「静岡県史別編4 人口史」に掲載のため	酒春場遺跡	レプリカSEM写真3点
37	11.5	株式会社テレコムスタッフ	NHKBSプレミアム「英雄たちの選択 新春古代史SP」において放映するため	海道前C遺跡	縄文土器3点・石棒1点
				酒春場遺跡	縄文土器1点
				安道寺遺跡	縄文土器2点
				甲ッ原遺跡	縄文土器1点
				一の沢遺跡	縄文土器2点・土偶1点
				酒春場遺跡	縄文土器3点
				上の平遺跡	縄文土器2点
				向井遺跡	縄文土器1点
				上野原遺跡	縄文土器1点
				重郎原遺跡	縄文土器1点
				獅子之前遺跡	縄文土器1点
38	11.10	株式会社ジャンプコーポレーション	「健康カプセル!ゲンキの時間」テーマ長寿において放映のため	鰐沢河岸跡	マゾロ骨一式
39	11.18	山梨日日新聞社	山梨日日新聞に掲載のため	百々遺跡	調査写真1点
40	12.16	株式会社テレコムスタッフ	NHKBSプレミアム「英雄たちの選択 新春古代史SP」において放映するため	考古博物館	館蔵土偶一式

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
41	12.16	株式会社敬文舎	安齋正人著「縄文時代史下」に掲載のため	塩瀬下原遺跡	調査時写真1点・出土品集合写真1点
				岡遺跡	容器形土偶2点
42	12.24	株式会社ネクサス	BS-TBS「にっぽん!歴史鑑定」において放映のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
43	1.17	竹倉史人	竹倉史人著「土偶を読む。(仮題)」に掲載のため	一の沢遺跡	土偶1点・縄文土器1点
44	1.19	株式会社ことのは社	公益財団法人静岡県文化財団企画「しずおかの文化vol.4 駿河と甲斐」に掲載のため	油田遺跡	調査時写真1点
				身洗沢遺跡	プラントオーバル写真1点
45	1.20	株式会社清水書院	「高等学校 日本史探求」に掲載のため	岡遺跡	容器形土偶2点
46	1.21	山梨県埋蔵文化財センター	「埋文やまなし」第64号に掲載するため	稲荷塚古墳	銀葉嵌大刀1点
47	1.25	山梨県埋蔵文化財センター	ウォーキングマップ掲載のため	長田口遺跡	鏡片1点
				百々遺跡	調査時写真1点
				天神遺跡	縄文土器1点
				酒春場遺跡	土偶1点・調査時写真1点
				甲府城下町遺跡	陶磁器1点
				竜王2号墳	馬具集合1点
48	1.28	株式会社吉川弘文館	若狭徹著「古墳時代東国の地域経営」に掲載のため	甲斐鏡子塚古墳	空撮写真1点
49	1.28	株式会社ビッケル	水川きよしミュージックビデオ・ジャケット等に掲載のため	甲斐鏡子塚古墳	古墳群一式
50	1.28	実教出版株式会社	「精選日本史探求」に掲載のため	一の沢遺跡	縄文土器1点
51	2.1	忍野村	「忍野村誌増補版第1巻」に掲載のため	甲斐鏡子塚古墳	空撮写真1点
				考古博物館	外観1点
52	2.9	林憲吾	「食の文明論—ホモサピエンス史から探る」に掲載のため	中谷遺跡	調査時写真2点
53	2.10	株式会社サンニ印刷	「甲州市制施行15周年記念誌 市勢要覧」に掲載のため	殿林遺跡	縄文土器1点
54	2.19	釈迦堂遺跡博物館	企画展「みすけむり～山梨の水権土器～」におけるパネル・展示図録・広報等への掲載のため	甲ヶ原遺跡	縄文土器1点・調査時写真1点
				上野原遺跡	縄文土器1点
				一の沢遺跡	縄文土器1点・調査時写真1点
				安道寺遺跡	縄文土器1点・調査時写真2点
55	2.28	糸魚川市教育委員会	「翡翠ってなんだらう」・「因石翡翠」増刷のため	天神遺跡	ヒスイ製大珠1点

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名
56	3.2	株式会社山梨放送	「山梨ライブ ててて！TV」において放映のため	丸山塚古墳 古墳一式
57	3.2	紅ミュージアム	「紅ミュージアム常設展図録」に掲載のため	岡造跡 容器形土偶 2点
58	3.9	山梨県埋蔵文化財センター	「国指定史跡大丸山古墳」に掲載のため	大丸山古墳 複製一式
59	3.23	株式会社八木書店	八木書店刊「馬と古代社会」に掲載のため	百々造跡 調査時写真 1点

古代衣装貸し出し一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
1	4.20～4.24	山梨市立山梨小学校	学習教材として使用のため	貫頭衣	2着
				官吏服	1着
2	5.22～6.19	富士河口湖町立船津小学校	学習教材として使用のため	貫頭衣	1着
				女官服	1着
				官吏服	1着
3	6.13～6.27	早川町立早川北小学校	学習教材として使用のため	貫頭衣	1着
				胡服	1着
3	6.4～6.14	早川町立早川南小学校	学習教材として使用のため	貫頭衣	1着
				胡服	1着
				巫女服	1着
				女官服	1着
4	9.11～9.18	山梨県立ふじざくら支援学校	学習教材として使用のため	貫頭衣	1着
				胡服	1着
				女官服	1着
				官吏服	1着
5	6.16～7.9	山梨県立あけぼの支援学校	学習教材として使用のため	貫頭衣	1着
				巫女服	1着
				女官服	1着
6	10.13～11.10	山梨県立ろう学校	学習教材として使用のため	貫頭衣	1着
				胡服	1着
				巫女服	1着
				女官服	1着
				官吏服	1着

第Ⅱ章 調査研究業務

発掘調査等

1 記録保存のための発掘調査

番号	調査名
1-1	旧利根川堤防遺跡
1-2	田通遺跡
1-3	福部遺跡
1-4	上三條河原遺跡
1-5	新町前遺跡
1-6	二又第1遺跡
1-7	二又第2遺跡

2 整備事業に伴う調査

番号	調査名
2-1	大丸山古墳史跡復旧事業
2-2	国指定史跡甲府城跡愛宕山石切場跡
2-3	国指定史跡甲府城跡県民会館跡地
2-4	国史跡甲府城跡石垣維持管理事業

3 県内分布調査

番号	事業名	調査内容
3-1	中央新幹線（品川・名古屋間）建設に伴う試掘調査	試掘
3-2	高等支援学校桃花台学園の正門改修に伴う試掘調査（狐原遺跡）	試掘
3-3	新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設に伴う試掘調査（福部遺跡・田通遺跡・包蔵地外）	試掘
3-4	国道141号電線共同溝工事に伴う試掘調査（山影遺跡）	試掘
3-5	国道411号和ノアクセス道路建設に伴う試掘調査（包蔵地外）	試掘
3-6	国道20号法雲寺橋災害復旧工事に伴う試掘調査（包蔵地外）	試掘
3-7	一級河川濁川河川改修事業に伴う試掘調査（甲府城下町遺跡）	試掘
3-8	曾根丘陵公園内U字溝改修工事に伴う立会調査（東山南遺跡、上の平遺跡）	立会
3-9	曾根丘陵公園改修整備事業に伴う立会調査（上の平遺跡、石清水遺跡）	立会
3-10	舞鶴城公園施設改修工事（木柵改修）に伴う立会調査（史跡甲府城跡）	立会
3-11	舞鶴城公園照明改修工事に伴う立会調査（史跡甲府城跡）	立会
3-12	国道20号電線共同溝設置工事に伴う立会調査（霞堤）	立会
3-13	富士山御中道補道路（歩道）標識工事に伴う立会調査（史跡富士山）	立会
3-14	県立都留高等学校内電線移設工事に伴う立会調査（包蔵地外）	立会

整理作業

1 基礎の整理作業

番号	道跡名
1	新町前道跡
2	北畑南道跡

2 本格的整理作業

番号	道跡名
1	馬場平道跡
2	新町前道跡

3 報告書刊行一覧

番号	報告書名
第 328 集	馬場平道跡（一般国道 411 号御屋敷拡幅事業に伴う発掘調査報告書）
第 329 集	因指定史跡大丸山古墳（災害復旧工事事業報告書）
第 330 集	新町前道跡（第 1 次）概報（峡南地域単位制・総合制高校建設事業に伴う発掘調査）

1 記録保存のための発掘調査

1-1 旧利根川堤防遺跡

所在地 南巨摩郡富士川町小林字回り木1784-6、1784-8、

1785-1、1785-2、1778、1778-2、1952-1

事業名 中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事

調査期間 2020年5月29日～2020年7月18日

調査面積 約464.5㎡

担当者 久保田健太郎・上野桜・小池準一・数野優・
内田祥一



遺跡位置図

本事業は、東海旅客鉄道株式会社が実施する中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事に伴う旧利根川堤防遺跡の記録保存を目的とした発掘調査である。当遺跡は、2019年10月に実施した試掘調査の結果、新たに発見された。調査範囲は橋脚建設予定地の内、堤防

遺構に該当すると想定される3地点約464.5㎡とした。本格的な発掘調査は、2020年5月29日から2020年7月18日まで実施した。

周辺環境 当遺跡は旧利根川左岸の標高約265m地点に位置する。利根川は檜形山を水源として東流し、富士川に合流する河川である。利根川は歴史的に度々氾濫し、中下流域に甚大な被害を与えてきた。そのため、流域には堤防が築かれており、特に下流域においては土砂堆積と堤防の増築が繰り返されて天井川を形成していたという。1962年には流路の主体を南側の戸川に切り回すための新利根川が構築され、切り直し地点より下流側が旧利根川と呼称されるようになった。1974年から1982、1983年頃までに実施された改修事業により、天井川の景観が解消された。また1982年から1985年にかけて国民体育祭に係る整備が実施された。今回調査対象とした堤防跡は旧利根川左岸の堤防跡で、1982年以降の国民体育祭に伴う整備によって造成された土地に埋没していたものである。

調査結果 堤防跡の発見が見込まれた橋脚部分3か所を調査対象とし、川下側から順に1区、2区、3区としたが、2区・3区は富士川町民体育館の基礎等による攪乱が著しく、堤防跡をはじめとする埋蔵文化財は確認できなかった。

1区では堤防が良好に保存されており、堤体が現地表下20cm程度から発見された。ただし上部が削平されていることから、上端の馬踏みは発見されていない。最も現河道に近い調査区南東側からは川表の石積みと裏栗層が、調査区北西側からは、堤防川裏側の法下にあたると思われる水路跡が発見されており、その間からは砂と礫による盛土層が発見された。川表の石積みから川裏の水路までの長さは約10mで、現存する石積みの高さは約1.5mである。発見された石積みの延長は約7mである。

石積みには旧利根川上流で産出する花崗閃緑岩や安山岩、礫岩、砂岩等が用いられており、利根川流域で採取された石材が用いられたものと考えられる。石材は小ぶりであるため控えが短く、全体に孕み出し等の変状が認められる。全体的な石積みの特徴は、比較的扁平な石材を水平に積む乱積みであるが、落とし積みの箇所もあり、部分的な改修を受けている可能性がある。根石に比較的大形の石材が利用されている。表面の石積みの勾配は75度程度と急勾配である。盛土層は主に砂礫層と細粒砂～シルト層によって構成されているが、川表側は砂礫層、川裏側は中粒砂とシルトの互層によって構成され、その間は細粒砂～シルトが充填されている。堤体内川表側の砂礫層と中間の細粒砂～シルト層の境には、砂礫の流出を防ぐための小規模な堤体内石積み構築されている。

石積みの根石の下には鋼木はみられず、石出し等の付属施設もみられなかった。



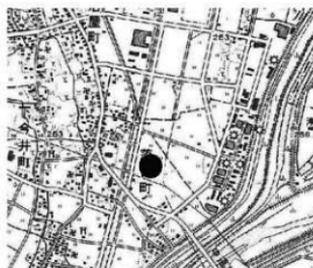
旧利根川流路と調査対象地



発見された堤防跡

1-2 田通遺跡

所在地 甲府市落合町796外
事業名 新山梨環状道路東部区間II期建設工事
調査期間 2020年8月17日～2020年12月2日
調査面積 約3.165㎡
担当者 高野玄明・高左右裕



遺跡位置図

本事業は、新山梨環状道路東部区間II期建設工事に伴う田通遺跡の記録保存を目的とした発掘調査である。当該地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったものの、2020年4～6月にかけて、埋蔵文化財の有無を確認するため、開発工事に先立ち試掘調査を実施した。

調査の結果、地表下約1.7m～2.8mにおいて、中世の畦状遺構2面が検出された。これにより、文化振興・文化財課及び新山梨環状道路建設事務所との三者協議を実施し、記録保存に基づく発掘調査を8月中旬から実施することとなった。

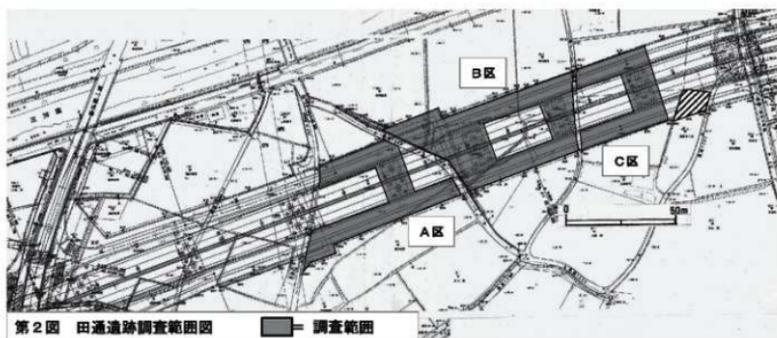
田通遺跡は、濁川及び笛吹川が合流する右岸地域に広がる氾濫源に位置し、標高は252m前後を測る。事業用地の西側には南北に長く延びる微高地(自然堤防)が存在し、現在の落合町はこの微高地上に展開する。調査範囲は、南北方向に伸びる調査区が東西に横断する農道で分断されるため、便宜上南から、A・B・C区と命名し、調査を実施した。

調査の結果、「A区」では壁面の砂層や遺構確認面からの出水が激しく沼地化するなど、遺構精査が十分にできる状況ではなく、調査区壁面の土層断面観察に主体をおき調査を実施したが、水田などの遺構は確認できなかった。出土遺物については、陶器、土師質土器、種子類等が確認されている。「B区」では、地表下1.7m及び2.8m程に中世と思われる畝状の遺構が確認されている。1面目には、南北方向に幅0.3～0.5m、深さ0.1～0.2m、長さ2.5～5.0mの畝状遺構が0.8～1.8m間隔で10条確認されている。出土遺物については、1面目から土師質土器、内耳土器、陶器、古銭(北宋銭)、種子類が確認されている。2面目においても、「A区」同様、遺構確認面が沼地化し、遺構精査できる状況ではなく、明瞭な遺構や遺物の確認はできなかった。「C区」ではB区同様地表下1.7～2.8m間に中世と思われる畝状遺構が2面確認され、1面目には調査区東側と西側に畝状の遺構が確認され、間隔は0.3m程度。東側では幅0.3～0.6m、深さ0.1～0.2m、長さ9.0～10.3mの規模で12条、西側では幅0.3m、深さ0.15m、長さ50mの規模で7条確認されている。間隔は1.0～1.3m程度を測る。2面目は、地表下約2.8mの黒色粘質土が遺構確認面であるが、A・B区同様、壁面や遺構確認面からの出水がひどく、沼地化するなど、十分な遺構確認ができない状況にあった。

C区の出土遺物は、1面目の出土遺物は、土師質土器、種子類が出土している。2面目には土師質土器が確認されている。

田通遺跡は、元々地下水の高い地域であり、周辺は水田耕作を主体とした地域で、発掘調査にも支障を及ぼす程の出水量が認められ、小字名である「田通」が示すとおり、水田を中心としてこの地域が利用されていたことが推測できる。現在の落合の集落は西側の南北に長く展開する微高地(自然堤防)を有効利用し、中世には村落としての開発が進んでいたことが想定される。

本遺跡は、水田地帯に開かれた地域であり、B区・C区において、若干の微高地上に畝状遺構が確認されている。B区では南北方向、C区では南北方向と東西方向の2形態が確認されている。レベルや形状も違うことから、時期差や利用目的に相違があるものと考えられる。当該地域の水田耕作としての利用の他、それ以外にどのような土地利用していたのか、土壌分析等により明らかにしていきたい。



第2図 田通遺跡調査範囲図

■ 調査範囲

田通遺跡調査範囲図



田通遺跡全景(北から)



B区1面畝状遺構検出状況



C区1面畝状遺構検出状況

1-3 福部遺跡

所在地 甲府市落合町内地
事業名 新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事
調査期間 2020年8月6日～2020年12月1日
調査面積 約1.050㎡
担当者 御山亮済・内田祥一



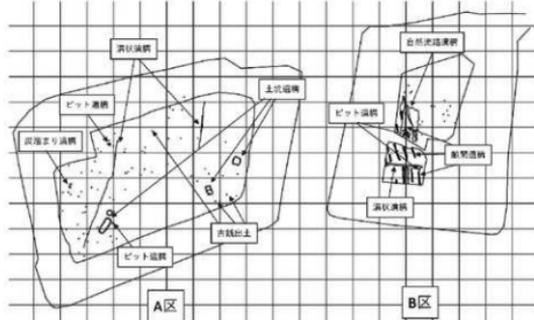
遺跡位置図

福部遺跡の埋蔵文化財発掘調査は、新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設に先立ち記録保存を目的として実施した。本年度当初時点では、当該事業用地内に周知の埋蔵文化財(遺跡)の存在は把握されていなかったが、事業に先立ち2020年6月に試掘調査を実施したところ、地表面下約3m付近にて中世に帰属する遺跡の存在が明らかとなった。このことを受け、「山梨県埋蔵文化財事務取扱要綱」に基づき、事業により破壊されてしまうもしくは道路建設に伴い社会的な断絶が恒久的に見込まれる区域を対象に発掘調査を実施することとなった。

周辺環境 福部遺跡は甲府盆地のほぼ中央に位置し、濁川と平等川、笛吹川が合流する右岸地域に当たる。標高は約253mである。遺跡が位置する甲府市落合地域は甲府盆地の底部に位置しており、氾濫原に旧河道が放射状に広がる地域である。周辺の遺跡立地を見回してみると、甲府市落合地区の西部にある自然堤防(微高地)上に落合氏屋敷跡、小曲氏屋敷跡、今井氏屋敷跡などの中世土豪屋敷跡の伝承地が分布している。甲府市南部地域の埋蔵文化財調査の事例は少なく、甲府盆地における低地への開発進出を考える上で重要な地域である。

土層堆積状況 福部遺跡における基本的な土層堆積は水成堆積を主体とし、典型的な沖積地の様相を呈している。地表面下約20cmは現代の水田耕作土層であるが、その下は地表面下約2.8m地点にある遺構確認までは隙を全く含まない細粒砂～シルトの互層でおおむね平行堆積が基本となる。堆積土中ではラミナを明確に観察することができ、常に水流の影響を受けた土地であったことが指摘できる。細粒砂の堆積環境は下層との土層境界が不整合であり、頻繁な河川氾濫で運搬された土砂により形成された地域であると考えられる。堆積しているシルトは土壌化しており、当該土層の堆積時期には陸地化が進んだものと考えられる。

発見した遺構と遺物 発掘調査では中世後半を主体とする遺構および遺物を確認した。出土遺物は遺物収納箱4箱を数え、「かわらけ」、青白磁、砥石、古銭、鉄滓、木質遺物などがある。出土する遺物はいずれも小破片で、かつ煮炊具などの生活用具は認められないことから、居住空間である可能性は極めて低い。遺構は溝2条、土坑3基、ピット9基、炭溜まり1か所、畑跡2か所がある。炭溜まり内には溶融した「かわらけ」や鉄滓が含まれている。掘り込みは認められないが、鉄器加工などの小鍛冶痕跡の可能性もある。畑跡とした遺構は、畝間が50cm程度と広いため用途を再考する余地はある。



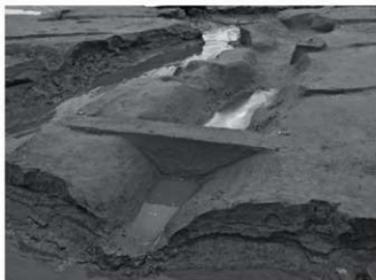
福部遺跡 遺構配置図 (縮尺任意・5m方眼)



福島遺跡調査区鳥瞰写真(北側から曾根丘陵方面望む)



調査区(A区)南壁土層堆積状況



B区溝



A区炭溜まり



B区燻跡

1-4 上三條河原遺跡

所在地 中央市上三條字河原252-2、946-3
事業名 中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事
調査期間 2020年10月5日～2020年11月30日
調査面積 約660㎡
担当者 久保田健太郎・上野桜・小池準一

本事業は、東海旅客鉄道株式会社が実施する中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事に伴う上三條河原遺跡の記録保存を目的とした発掘調査である。当遺跡は、2020年6月に実施した試掘調査の結果、新たに発見されたものである。調査範囲は本線建設範囲を主体とする用地内で埋蔵文化財の分布が想定される約660㎡とした。本格的な発掘調査は、2020年10月5日から2020年11月30日まで実施した。

周辺環境 当遺跡は、甲府盆地南側の沖積地上標高約253m地点に位置する。盆地内の低地にあり、掘削に際しては深深度に至らずとも出水が著しい。東側約1km地点には上窪遺跡や平田宮第2遺跡が、西側約55m地点には小井川遺跡が立地している。

調査結果 調査区の東端は遺物包含層が存在せず砂礫層が厚く堆積しており、南北方向に流れる旧河道であったと考えられる。これより西側のシルト層や細粒砂層上に遺物や遺構が分布しており、南北方向に流れる河道の西側の陸地に遺跡が形成されたものと推測される。遺物は古墳時代終末期の土器が合計1300点以上出土した。後述する堅穴建物跡の可能性のある窪地を中心に東側にかけて特に多く分布する傾向がみられた。

調査区の中央付近には北西から南東にかけて皿状の窪地がみられた。北側にカマド跡が発見されていることから住居跡の可能性が高いと考えられるが、全体が水成堆積層によって覆われる過程で損壊している点や出水の著しい当該地の性質から平面プランや土層断面上の遺構縁辺の確認は困難を極めた。窪地内にはカマド跡周辺を中心に炭化した植物遺体が堆積しており、遺物はその植物遺体層内や上面から多く出土した。また、調査区北壁には幅7m程度の堅穴建物跡とみられる遺構の断面を観察できる。当該遺構は調査区縁辺に排水を目的として設定した水路内までしか分布していないものとみられ、本調査区内では平面プランは確認できない。その他、土坑4基が発見された。

調査所見 当該地には古墳時代終末期の堅穴建物が少なくとも2棟(北壁土層断面にみられたものを含む)分布しているとみられる。調査区内の東側に南北に流れる旧河道がある他、遺構覆土や地山が水成堆積によるシルトや細粒砂よりなることから、増水に伴って遺構が分布するエリアも浸水しやすい環境であったことが想定される。当該地域における古墳時代終末期の遺跡立地や集落景観の考察に資する事例の1つになると考えられる。また、調査区北壁の土層断面に堅穴建物跡とみられる遺構がみられることから、現状の歩道側に建物跡が分布しているものと考えられ、今後開発のある場合には保護の措置を要する。中央新幹線事業関連でも、橋脚予定地の内、現道のエリアについては未調査であるので、今後、工事を実施する以前に保護の措置が必要である



遺跡位置図



調査地点



遺物出土状況



カマド跡調査状況



壁穴建物跡とみられる窪地



北壁土層断面上の壁穴建物跡とみられる遺構

1-5 新町前遺跡

所在地 西八代郡市川三郷町市川大門1733-2
事業名 青洲高校建設事業
調査期間 2020年12月14日～2021年2月26日
調査面積 約1,300㎡
担当者 久保田健太郎・上野坂・小池準一



遺跡位置図

県立青洲高校内では2017年度に実施した試掘調査により、埋蔵文化財が包蔵されていることが判明し、「新町前遺跡」として遺跡台帳に登録した。その後、青洲高校の建設に伴い、2018年度と令和元年度に発掘調査を実施してきた。本調査地点では山梨県教育庁学校施設課が実施する青洲高校建設事業に伴い屋内運動場の建設が予定されている。当該地点隣接地では2018年度、2019年度に同事業に伴う本調査で埋蔵文化財が発見されているため、屋内運動場建設地点でも埋蔵文化財の発見を想定し、記録保存のための発掘調査を実施することとした。本格的な発掘調査は、2020年12月14日から2021年2月26日まで実施した。周辺環境と既往の調査 遺跡の東側を北流する芦川が形成した扇状地上に立地している。調査結果にて言及する洪水堆積層は、この芦川の氾濫によるものと思われる。2018年度調査では中世の水田跡と平安時代の集落跡が、2019年度調査では中世の畑跡と平安時代の集落跡が発見されている。

調査結果 調査対象地では、礫層上もしくは礫層上のぶい・黄褐色中粒～細粒砂層上に平安時代の遺構が構築され（第2面）、平安時代の遺物包含層上部に中世の畑跡が形成されていた（第1面）。畑跡の上には洪水堆積層があり、その後は水田の造成と洪水堆積が繰り返されていた。

第1面の畑跡では、調査区の大部分に東西方向を中心とした畝跡が発見された。一部北側では南北方向であった。第2面では堅穴建物跡3軒と掘立柱建物跡1棟、土坑3基が発見された。堅穴建物跡には南東側にカマド跡が付随していた。また、堅穴建物跡内や包含層から10世紀代の土器が出土した。

調査所見 〈第1面の調査〉2018年度に実施した調査と2019年度1区での調査では中世の水田が発見されているが、当該調査区と2019年度2区での調査では畑跡が発見された。今後、各地点の詳細な時期比定をしていく必要があるが、これらが同時期であれば地点による土地利用の違いがあったものと想定される。

〈第2面の調査〉遺構や遺物は調査区南東側や北側に分布する傾向が見られ、調査区中央では概ね南東から北西にかけて遺構や遺物が希薄になる。遺構地山以下の堆積状況を確認したところ、調査区中央付近に流路状の洪水堆積層が確認できた。遺構形成時には流路が埋没していたと思われるが、この地山以下の洪水堆積が遺構や遺物の分布が希薄になる要因になっていた可能性がある。

1号堅穴建物跡からは10世紀の土器と共に古墳時代の土器が出土した。今後、出土状況などの検討を踏まえ、遺跡の形成年代とその変遷について整理していく必要がある。

次年度調査範囲での確認調査 2021年度には、今年度調査区西側で集水升建設に伴う発掘調査を予定しており、その範囲で試掘調査を実施した。試掘トレンチは集水升の東と西、中央に南北方向に設定し、調査した。調査の結果、中央のトレンチから瓶の把手が出土した。2020年度調査区の第2面に対比される土層からの発見で、同層は東、西のトレンチからも発見されている。このことから、当該工事により掘削される範囲全体を対象とした埋蔵文化財の保護の措置が必要である。



調査対象地



中世の畑跡



平安時代の竪穴建物跡



平安時代の竪穴建物跡



掘立柱建物跡

1-6 二又第1遺跡

所在地 中央市成島地区
事業名 中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事
調査期間 2021年1月21日～
調査面積 約3,500㎡
担当者 御山亮済・内田祥一

二又第1遺跡の埋蔵文化財発掘調査は、リニア中央新幹線の保守点検基地建設に伴い埋蔵文化財の記録保存を目的として実施した。事業は中央市成島地区を対象としており、事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地「二又第1遺跡」及び「二又第2遺跡」が当たる。当該事業における総調査対象面積は約3,200㎡に及ぶ。当年度は総対象面積のうち約3,500㎡を対象とした、A区の発掘調査を実施した。

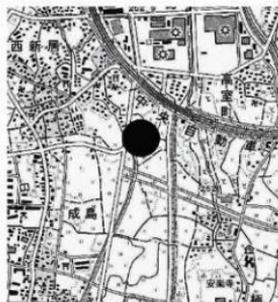
周辺環境 二又第1遺跡は、甲府盆地底部に位置する中央市成島地区の標高約250mの地点にある。調査区東側には一級河川神明川が南流する。神明川は文化三年の古地図には「鴨橋川」と標記されており、当該河川から東方にある山伏川を含めて、中世以来当地域に耕地用水を供給した成島・乙黒堰の水系とされている(「玉穂町誌」)。永正14(1517)年の「武田信直判物」によれば、成島・乙黒堰の水代の徴収権を甲府市に所在する一蓮寺が持っていたことが示されており、一蓮寺の寺領であったことが読み取れる。

国土地理院が刊行する治水地形分類によると、当該調査地点は蛇行する旧河道の内湾部に位置している。旧河道の具体的な年代は不明であるものの旧河道が蛇行していることから、当地点は過去、小高い土地であったことが指摘できる。

発見した遺構と遺物 当該調査では、2面の遺構面の発掘調査を実施している。1面目は表土直下にある近世の文化面である。検出した遺構には、溝12条がある。調査区中央部において南北方向に8条の溝が平行し、この溝群に直行する東西方向の溝が2条平行している区画状の溝群を検出した。平行する8条の溝間は約2.5m。現時点では、用途、機能は不明である。文化面直上には、近世～近代の陶磁器、金属製品(煙管か?)、古銭が出土した。

地表面下約50cmにおいて、2面目の文化面を確認した。包含層遺物の年代から16世紀代に帰属する文化面と考えられる。検出した遺構は、ピット300基、土坑80基、溝4条、井戸3基、石列1条、配石遺構1基、畑跡があり、検出したピットのうち少なくとも3種の掘立柱建物跡を確認している。出土した遺物には、土器、石製品(砥石、五輪塔部材など)、木製品下駄など、馬歯、古銭などがある。出土土器の器種は「かわらけ」、播鉢、内耳土器が主体であり、居住空間として利用された空間であったことを傍証している。また、調査区の中央部では地震による噴砂の痕跡を確認した。発災時期はより詳細な検討が必要であるが、土層ベルトの観察から、現時点では16～17世紀代のもつと想定している。調査区の南側約三分の一は、包含層直下の文化面を構成する地山が径3cmの小礫を主体とする砂礫層になり、遺構密度、遺物出土量が減少する傾向がある。ただし、当該砂礫層を掘り込んで南東方向に延びる溝が見つかっており、生活圏内とは考えにくい。当時の人が造作した痕跡が残っている。この溝は、現時点で未掘削段階であるが、集落の downstream 方面に位置していることや、砂礫層を掘り込んでいることから、居住空間として利用している土地の地下水位を下げる機能があるのではないかと想定している。砂礫層に変化する境界付近では畑跡が見つかっており、村落の端部としての土地利用がなされていることから、一つの可能性として検討課題としている。

今回の発掘調査では、甲府盆地低地地域における中世村落の生活様式について調査成果が期待される。特に、甲府盆地低地部の地下水位が高い土地開発において、土地を確保するための造作や空間利用の様子が着目される点である。



遺跡位置図



平行する2条の溝 (第1面)



平行する2条の溝 (第1面)



出土した土器、石製品



出土した馬歯



検出したカマド



検出した細跡



砂礫層を掘り込む溝



検出した噴砂の痕跡

1-7 二又第2遺跡

所在地 中央市成島地区
事業名 中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事
調査期間 2021年2月1日～
調査面積 約1800㎡
担当者 御山亮介・高左右裕

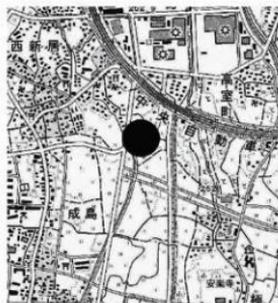
二又第2遺跡の埋蔵文化財発掘調査は、リニア中央新幹線の保守点検基地建設に伴い埋蔵文化財の記録保存を目的として実施した。事業は中央市成島地区を対象としており、周知の埋蔵文化財包蔵地「二又第1遺跡」及び「二又第2遺跡」が該当している。当年度は総対象面積のうち約1800㎡を対象とした、AⅠ区の発掘調査を実施している。なお、発掘調査地点はヤード内に残土置き場を設定することができないため、切り返して調査を実施することとなり、西側をAⅡ区、東側をAⅢ区として調査を実施した。当年度はAⅠ区のみを調査し、次年度にAⅡ区に着手する予定である。

また、二又第1遺跡A区と同様に予算年度を繰り越して調査を継続しており、4月30日までに調査を終了する見込みである。
周辺環境 二又第2遺跡は、甲府盆地底部に位置する中央市成島地区の標高約250mの地点にある。調査区に西接して、大堰川(排水路)が通り、豊富な水を湛えている。当該地域は中世以来耕地用水を供給した成島・乙黒堰の水系にあり、当該地点についても、その恩恵を受けていたものと考えられる。

当該地点の地形環境を見てみると、国土地理院が刊行する治水地形分類図には、南流する旧河道上に位置しており、水成堆積による土地の成立が基本と考えられる。

発掘調査の成果 今回の発掘調査を通して、明確な人間の痕跡を捉えることはできなかった。しかしながら、堆積土中からは、中世～近世にかけての土器や陶磁器、古銭などの遺物が出土した。堆積土層に着目すると、地表面下約80cm以下は中～粗粒砂の堆積とラミナが明瞭に発達している様子が看守でき、上層ほど細粒化することから比較的流速が速い環境が続いていたものと考えられる。地表面下約80cm以上では、細粒砂の堆積が主体的である。途中、灰色粗粒砂の堆積が認められる地点もあるが、洪水や河川氾濫などの災害によるものであろう。こうした災害以外の基本的な堆積環境は、平常時には水の流れが無い状態で、雨や周辺の河川氾濫などが少量流れ込む程度の水成堆積が長期間に及んだものと理解している。今回出土した遺物はこの土層から出土しているものであり、遺物を押し流すほどの営力があつたとは考えにくい。したがって、出土遺物は隣接する周囲から供給されたものと想定して、位置情報の記録を行った。

今回の調査では遺構は検出しなかったものの、東接する地点では、試掘調査により水田が広がっていたことが指摘されている。したがって、当該地域周辺の土地の成り立ちとその土地利用の境界を明らかにできたことは、遺跡を考えるうえで重要な情報である。



遺跡位置図



調査区遠景(曾根丘陵方面を望む)



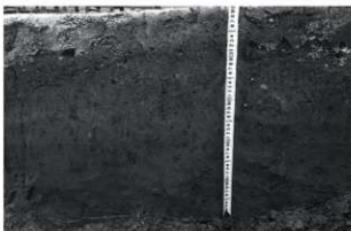
調査区全景



調査区鳥瞰



土層確認用トレンチ



土層堆積状況(調査区北西隅)



土層堆積状況(調査区南東隅)



表土掘削の様子



埋め戻しの様子



出土した遺物

2 整備事業に伴う調査

2-1 史跡大丸山古墳

所在地 山梨県甲府市下向山
事業名 大丸山古墳史跡復旧事業
調査期間 2020年7月8日～2020年8月31日
調査面積 約200㎡
担当者 北澤宏明・中村有希



遺跡位置図

大丸山古墳は、甲府市(田中道町)に所在し、甲府盆地南側に東西に伸びる曾根丘陵の東山と呼ばれる丘陵の中腹に位置し、4世紀中ごろにつくられたと考えられる墳長約99～120m、高さ約10mの前方後円墳である。

昭和4年に地元住民の手によって、大形の花崗岩で造られた組合式石棺の上に安山岩製の竪穴式石室をもつ主体部が発掘され、組合式石棺から男女2体の人骨とともに、朱が施され、頭部を受ける窪みが二つある石枕や八雲鏡、三角緑日・月獣文帯三神三獣鏡、曲文帯環状乳三神三獣鏡といった3面の鏡、勾玉・管玉、ガラス玉といった装身具が納められていた。上部の竪穴式石室からは、堅刷板葺短甲や鉄剣・鉄刀・鉄鏃といった武器・武器、鉄製柄付手斧、短冊鉄斧、袋状鉄斧、ヤリガンナ、銅、鬘、鎌、刀子といった農工具が納められていた。

大丸山古墳では、これまで三木文雄氏等による1969年の墳丘測量、1971年と1972年の埋葬施設の調査や1976年の山梨県教育委員会による測量調査が行われている。

墳丘が良好に残存していることに加え、特異な構造の埋葬施設や多数の副葬品があることから2013年に国の史跡に指定された。

史跡大丸山古墳では、令和元年10月12日の台風19号により、周辺の倒木や雨水の浸食等が原因で史跡指定地の一部が崩落した。このため古墳の保存を図ることを目的に、崩落個所の災害復旧工事を行った。災害復旧工事は、①崩落箇所周辺の生い茂る雑木が今後、強風等により根元が揺れたり、倒木によって法面が崩落する危険性があったので、これを防止するために急傾斜部分約200㎡を対象に樹木の伐採を43本行った。②崩落の進行をおさえて地盤を安定させるために、急傾斜部55.6㎡に植生マット①②の施工範囲は古墳の墳丘から離れているため遺構への影響はなかった。

事業の内容は、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第329集「国指定史跡大丸山古墳-災害復旧工事事業報告書-」として令和3年3月に刊行した。



樹木伐採状況



植生マット設置状況



災害復旧工事前1



災害復旧工事後1



災害復旧工事前2



災害復旧工事後2



災害復旧工事の範囲

2-2 史跡甲府城跡(愛宕山石切場跡)

所在地 甲府市愛宕町85-2
事業名
調査期間 2020年10月12日～2020年11月4日
調査面積 約21.38㎡
担当者 正木季洋・佐賀桃子



甲府城跡は、野面積石垣が良好な状態で残る国内でも有数の近世城郭として評価され、2019年2月に愛宕山石切場跡とともに国史跡に指定された。愛宕山石切場跡は、敷地内に石切の痕跡が認められる石材が散布することや、絵図に「石取場」の記載があることから、甲府城に関連した石切場であることが分かっていく。また、大正時代頃には製糸場を営む大木善石前門の別宅「愛宕山荘」が建てられ、その後、歩兵第49連隊(甲府連隊)の連隊長公舎、さらに近年まで法務省甲府地方裁判所の所長公舎として利用されていた。その際に石切場の痕跡を活かした庭園が造られ、その姿を現在に継承してきた経過を追うことができる。

2007年に甲府地方裁判所所長公舎を解体する際、基礎的データ把握のために試掘調査を実施したものの、加工場の痕跡や池の底地の状況調査等の十分なデータを得られておらず、史跡の内容を把握するためには更なる調査が必要である。

今年度の試掘調査では、庭園としての地形造成や加工場の痕跡、岩盤の状況等、史跡の内容把握することを目的とする。史跡の北側に3トレンチ、東側に4・5トレンチを設定した。人力により掘削し、遺構の確認、写真撮影・平板による測量等の記録作業を行った。3トレンチにおいては、土のうによる岩盤保護後、人力による埋め戻しを行った。現地における調査終了後、記録図面・写真の整理および写真からの図化作業を実施した。

3 トレンチ 当該地は、大正時代頃の写真資料から愛宕山荘の離れの建物が建てていたことが想定されている。そのため、土地造成や岩盤の状況等を確認する調査を実施した。

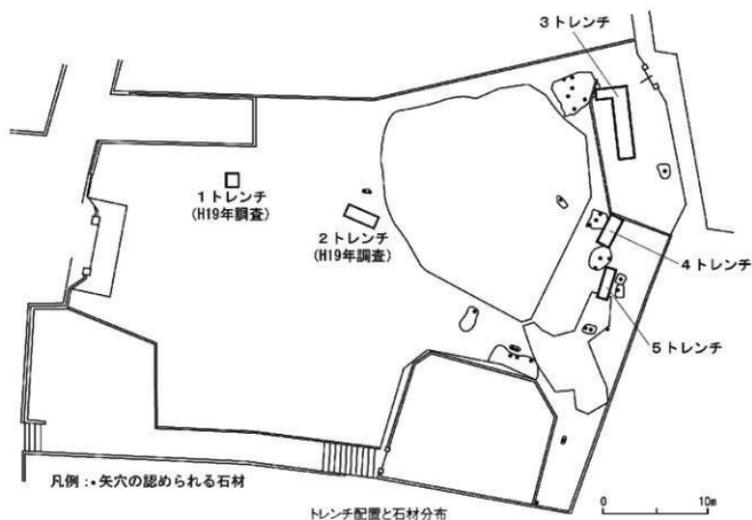
地表下約0.3mの地点でコンクリート基礎を確認した。トレンチ北側においてコンクリート基礎の下から岩盤を確認したため、トレンチを東側へ拡張したところ、地表下約0.4mの地点の岩盤から横幅約7～8cm(二寸半程)の矢穴を確認した(第3図)。この矢穴の大きさは江戸時代中頃(寛永年間から享保年間)のものとはほぼ同じ大きさである。また、コンクリート基礎と同じ面に平坦な石材とその周辺に細かい石材が置かれている。横幅約5cmの矢穴が確認でき、近現代以降に置かれたものと考えられる。地表に露出していた岩盤には、近現代に削られた痕跡を確認した。離れを建て直す際、基礎や埋設管を設置しやすくするために石を加工したと推測される。また、埋め戻し後にトレンチ東側から2つの礎石を確認した。石の間は約1mであり、近現代において離れを建て直す際に配置されたものと考えられる。

4 トレンチ 当該地は、大正時代頃の写真資料においてこの土地の由来が記された石碑「園記」が建てられ、その脇には離れへ続く階段が写っている地点である。階段の位置・残存状況等を確認するために調査を実施した。

人力による掘削を行ったところ、地表～地表下0.2mの地点で丸石とコンクリートによる階段を確認した。写真資料には丸石と土の階段が写っていることから、大正時代以降に修復したと推測される。

5 トレンチ 当該地は、安山岩の露頭や立石と窪地が確認できるため、江戸時代に石を採った痕跡を活かして池として造成した可能性を想定し、岩盤の状況や加工痕を確認するために調査を実施した。

掘削したところ、岩盤に及ぶまで現代の廃棄物を多く含む土が堆積していた。岩盤は、北東部で地表下約0.35m、南西部で地表下約0.85mの地点で、北東から南南西にかけて傾斜していることが明らかになった。周辺の安山岩の露頭や岩盤の傾斜角度と概ね一致しており、同レベルの節理面が確認できる。トレンチ内で見つかった安山岩の破片の中には、横幅約5cmの矢穴をもつものや打ち欠いた痕跡があるものも確認した。しかし、岩盤への加工痕が見られないこと、現代の廃棄物を多く含む土が堆積していることから、大正時代以降に庭園を造る際に盛り土をして池を造り、池の周りに石材を配置する際に石を加工した可能性がある。また、昭和時代以降に池を埋めたことが考えられる。



3トレンチ 調査状況



3トレンチ 岩盤検出状況



4トレンチ 階段と石碑「圍記」



5トレンチ 岩盤検出状況

2-3 史跡甲府城跡(県民会館跡地周辺)

所在地 甲府市丸の内一丁目地内
事業名 都市公園舞鶴城公園(史跡甲府城跡)整備
調査期間 2021年1月7日～2021年1月28日
調査面積 約6.75㎡
担当者 正木季洋・佐賀桃子



位置図

今回調査を実施した10号トレンチ付近は甲府城の内堀に面する石垣にあたり、江戸時代中頃以降の絵図中には当該部分に腰石垣が描かれているものがある。2018年度に実施した発掘調査(7号トレンチ)により、腰石垣の出隅部と思われる箇所を確認しているが、近現代の建物基礎コンクリートが接続していることなどから、明確に出隅部と言い切ることができない状況にあった。腰石垣の積み方についても、甲府城築城期にみられる野面積みにより構築されている状況であり、絵図史料との差異が認められる状況であった。また、腰石垣が接続する西側の石垣(以下「西側石垣」という。)については、これまで詳細な調査・観察等が実施されておらず、埋設されている下部構造や腰石垣との接続方法等も不明であった。

今回の調査では、腰石垣の範囲や構造、西側石垣の構造や腰石垣との接続状況等、史跡の内容を把握することを目的とし、2018年度に発掘調査を実施した7号トレンチの西側、西側石垣脇にトレンチ(10号トレンチ)を設定した。

〔西側石垣〕

甲府城築城期の野面積み石垣が、地表下約1.1mの地点まで続いている状況を確認した。石垣前面に昭和期の石垣解体・堀埋め立て時の築石等が多く含まれる埋土層が厚く堆積し、掘削面積が狭くなったもの、石垣最下部付近に堀底と思われるしまりの強いシルト質土層が堆積すること、ボーリングステッキによる刺突調査で築石大の石が確認できないことなどから、今回確認した石垣最下部石材は根石の可能性が高い。また、地下部分においては詰石の欠落等は少なく、良好な状況で残存している。

地上部の観察では、築石の破断や詰石欠落等の異常箇所や、近現代に積み直しが行われている状況が確認されている。

〔腰石垣〕

地表下約0.8mの地点で南側に面を有する東西方向の石垣を確認した。石垣の東側延長線上には7号トレンチで検出した腰石垣の出隅部と思われる箇所があることから、同地点は腰石垣の南端部であると確定した。

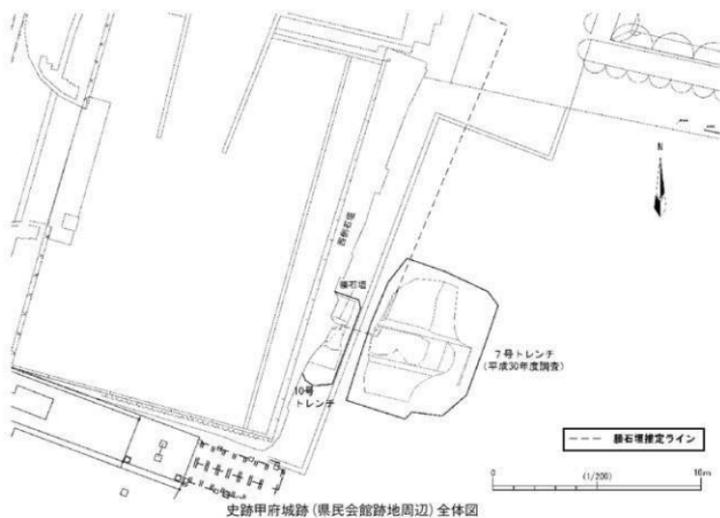
石垣南側は、昭和期の石垣解体・堀埋め立て時の築石等が多く含まれる埋土層が厚く堆積し、掘削面積が狭くなったもの、高さは約1.1mの三段の築石による石垣が、西側石垣にもたれかかるように構築されている状況が確認された。なお、今回確認した腰石垣最下部の石材は、西側石垣と同様に根石にあたると思われる。

腰石垣は甲府城築城期の石垣にみられる野面積みであり、築城期から存在していたものといえる。

今回確認した遺構は、写真撮影・光波測距儀による測量等の記録作業をおこない、土のうによる石垣保護後、埋設保存している。



10号トレンチ全景(南から)



西側石垣 (地上部南側)



西側石垣 (地上部北側)



西側石垣 (地下部)



巖石垣 (南から)

2-4 史跡甲府城跡石垣維持管理事業

所在地 山梨県甲府市丸の内一丁目地内
事業名 史跡甲府城跡石垣維持管理事業
調査期間 2020年8月14日～2021年3月19日
調査面積 約2,000㎡
担当者 依田幸浩・長田猛



位置図

史跡甲府城跡(都市公園舞鶴城公園)は、織豊期末期の文禄・慶長年間(1590年代)に築城された城郭である。明治以降の鉄道敷設や市街地開発などによって、城郭の規模は縮小されたが、現在でも甲府城跡の歴史的・文化的にも最も評価される特徴と位置づけられている築城当時の野面積石垣が、城内の全域に良好に残っており、1968年には県指定史跡、2019年には国指定史跡となっている。

また、1985年ごろから舞鶴城公園整備計画が数年にわたって検討され、1990年から県土整備部と県教育委員会、防災、復元、修景を目的とした石垣改修工事を中心に、歴史的建造物の復元、便益施設、園路、広場設備、城内建物の撤去などの整備事業を実施し、2004年度に完了した。

2005年度から2014年度にかけては、未改修石垣を対象として、公園利用者の安全確保や文化財保護の観点から、石垣の補修工事を実施してきた。石垣の補修工事は、現地調査によって石垣の傷み状況を記録し、補修方法を検討の上、詰石の締固め、交換、新規石材の補充を中心とした工事に、石垣の強度を維持させるものである。これは、改修工事と異なり、石垣を解体することなく安定化させる手法であり、オリジナル石垣を可能な限り旧状のまま後世に残す方法の一つとして期待できるものである。

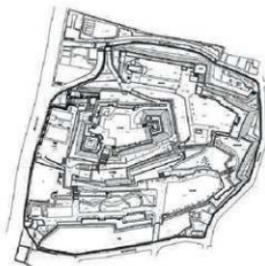
2015年度からは、引き続き公園利用者の安全を確保するとともに、約400年前の貴重な文化財である甲府城跡の石垣を保護・活用し、あわせて、文化財石垣の保護と補修に欠かすことのできない技術者の伝統的な石工技術の継承・育成を目的とした維持管理事業へと移行することとなった。

9月に第1回史跡甲府城跡石垣維持管理検討会議を開催し、委員の助言を受けたのち、石垣の変位状況の観測等を行う「一次点検」とより詳細な調査を行う「二次点検」を、文化財専門職員、石積み技能者、受託業者の3者で協議しながら以下のように進めた。

一次点検は、目視点検として、全石垣366箇所を1回、主要石垣233箇所については別途2回実施した。また、ゲージ計測は全157箇所を1回、新設ゲージ及び変動のあるゲージ22箇所を別途3回、前述のゲージ以外の中で1回目の計測結果で懸念のある挙動を示したゲージ10箇所を別途1回実施した。

二次点検は、二の丸の石垣(N-3～4.8.12～14.17.44～46)を対象に、石積み技能者による詳細目視点検と緩み等がみられる詰石の叩き締めなどの簡易補修作業を2月に実施した。

上記の点検結果については3月に第2回史跡甲府城跡石垣維持管理検討会議を開催し、委員から点検結果や次年度以降の事業についての助言を受けた。



1次点検：黒線内の石垣
2次点検：斜線部の石垣

点検箇所



第1回会議



第2回会議



現地視察



一次点検



一次点検(ゲージ計測作業)



二次点検(石積み技能者による詳細点検)

3 県内分布調査

3-1 中央新幹線(品川・名古屋間)建設工

に伴う試掘調査

所在地 笛吹市、甲府市、中央市、南アルプス市、富士川町
調査期間 2020年5月12日～2021年3月10日
調査面積 約2617㎡(調査対象面積97.130㎡)
担当者 深澤一史・数野優・久保田健太郎・高野玄明・岩永祐貴・
内田祥一・小池準一



中央新幹線架線経路図

中央新幹線(品川・名古屋間)は、東京都品川駅付近を起点に、本県甲府市、赤石山脈南部(南アルプス)を経て愛知県名古屋市までの延長約286kmを超電導磁気浮上方式で走行する計画である。路線延長約286kmのうち、地上部は約40km、トンネルは約246kmである。本県においては、地上部が27.1kmと地上部全体の約67%を占め、沿線都県自治体のなかでも埋蔵文化財について、特段の注意が必要な区間と言える。

このような背景から、事業主体者である東海旅客鉄道株式会社(以下、「JR東海」と言う)と協議を進め、2018年度から本格的に本線部分の試掘調査を開始している。

相当な範囲で埋蔵文化財に影響が及ぶ恐れがあることから、円滑な調査と埋蔵文化財保護行政を確実に推進していくために、毎月一回以上の定例会議をJR東海、県リニア交通局リニア用地事務所、県観光文化部文化振興・文化財課、当センターの四者で実施している。協議では用地取得状況、調査の進捗などを相互に確認している。

また、遺跡の調査は、原則用地取得後にすることが望ましいが、広域に地下情報を把握することは急務であるため、土地所有者の同意書をもって実施することやむを得ないとした。2019年度からはもともとJR東海が土地を取得した地点を原則として、包蔵地が周囲に無い地点については引き続き単独地点であっても同意書による調査を継続した。

2020年5月から2021年3月に本県で試掘調査を実施した地点は、笛吹市3地点、甲府市2地点、中央市12地点、南アルプス市8地点、南巨摩郡富士川町3地点となる。合計の調査対象面積は約97.130㎡、調査面積は約2617㎡に及ぶ。

試掘調査はバックホウにより試掘トレンチを掘削し、壁面・床面を人力で精査し遺跡の有無を判断した。

甲府盆地の地質特質上、甲府市西部以西は釜無川の氾濫原や複雑に入り組んだ扇状地である。河川運搬による砂礫層が分厚く堆積している事が多く、また出水も多いことから、調査は困難を極めている。こうした出水地点の調査は、安全基準に基づいた法面を形成し、排水をしながら調査を行っている。

今後も出水地点における調査方法の検討や、試掘調査の安全かつ適切な方法を検討しながら、全地上部で遺漏なく迅速に調査を進めていく計画である。

リニア全体位置図(甲府盆地内の主要路線部)

笛吹市・甲府市中道地区



甲府市・中央市東部



中央市



南アルプス市



南アルプス市甲西地区・富士川町



富士川町高下地区



中央新幹線試掘調査一覧表

No.	調査地点	調査日	調査概要					調査情報				備考		
			包蔵地区分	調査対象面積 (㎡)	試掘調査面積 (㎡)	調査率 (%)	地形	最大深度 (m)	遺構の有無	遺物の有無	遺構確認の深度 (m)		時代	出水深度
筋-1	富次市境川町三ツ樽	1月18日～1月19日、1月21日	包蔵地外	9420	1276	1.4%	扇状地	2.2	有	有	-	-	無	
筋-2	富次市境川町藤笠	12月7日	包蔵地外	670	30.5	4.6%	扇状地	2.6	無	有	-	-	無	周辺調査を要する。
筋-3	富次市境川町藤笠	12月17日	包蔵地外	830	26	3.1%	扇状地	1.8	無	無	-	-	無	
甲-1	甲府市上曾根町	3月1日～3月4日	包蔵地外	1950	1066	5.5%	氾濫原	2.2	無	無	-	-	有 GL-2.2m	
甲-2	甲府市上曾根町	2月2日	包蔵地外	3150	30	1.0%	造成	4.0	無	無	-	-	有 GL-3.7m	
中-1	中央市成島	3月2日	包蔵地外	380	28.6	7.5%	扇状地	2.3	無	無	-	-	有 GL-1.8m	
中-2	中央市成島	12月9日～12月16日	包蔵地外	7960	280	3.5%	氾濫原	2.0	有	有	GL-0.3m GL-0.5m	近世	有 GL-1.5m	近世に属する遺構であり、地域において保護の対象となるものではないため、本調査は不要とする。
中-3	中央市成島	12月14日	包蔵地外	340	27	7.9%	扇状地	2.2	有	有	-	-	有 GL-2.2m	近世に属する遺構であるが、地域において保護の対象となるものであり、本調査対象とする。
中-4	中央市布施	3月5日、3月9日～3月10日	包蔵地外	4010	117.5	2.9%	扇状地	1.9	無	無	-	-	有 GL-1.4m	
中-5	中央市下河東	10月6日～10月7日	包蔵地	1870	39	2.1%	氾濫原	4.0	有	無	GL-3.3m GL-3.6m	中世 平安	有 GL-3.6m	
中-6	中央市下河東	9月14日	包蔵地	1430	42	2.9%	氾濫原	4.0	有	無	GL-2.3m GL-2.6m GL-2.8m	鎌倉 平安 平安	無	
中-7	中央市下河東	1月13日～1月14日	包蔵地外	1830	91	5.0%	扇状地	2.8	無	無	-	-	無	
中-8	中央市下河東・上三篠	11月16日～11月19日、11月24日～11月25日	包蔵地外	7600	402	5.3%	氾濫原	2.8	無	無	-	-	有 GL-1.0m	
中-9	中央市上三篠	6月1日、6月8日～6月16日	包蔵地外	2100	118	5.6%	氾濫原	3.0	無	有	-	古墳 平安	有 GL-1.8m	
中-10	中央市布施	2月24日～2月25日	包蔵地	3060	77.3	2.5%	扇状地	2.2	無	無	-	-	有 GL-0.7m	
中-11	中央市白井河原	8月4日～8月6日	包蔵地外	2600	94	3.6%	氾濫原	4.0	無	無	GL-0.3 m	不明 平安	有 GL-3.0m	
成島保守基地	中央市成島	8月27日	包蔵地外	2020	42.5	2.1%	氾濫原	0.8	有	無	GL-0.4m	中世	無	

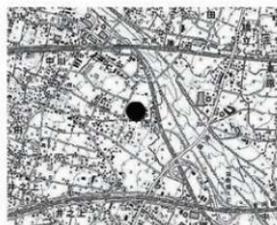
No.	調査概要		調査情報								備考			
	調査地点	調査日	包蔵地区分	調査対象面積 (㎡)	試掘調査面積 (㎡)	調査率 (%)	地形	最大深度 (m)	遺構の有無	遺物の有無		遺構確認深度 (m)	時代	出水深度
南-1	南アルプス市藤田	10月12日～10月13日	包蔵地外	1520	71	4.7%	氾濫原	2.7	無	無	-	-	有 GL-1.8m	
南-2	南アルプス市藤田	1月14日～1月15日	包蔵地外	8200	87	1.1%	氾濫原	1.8	無	無	-	-	有 GL-1.0m	
南-3	南アルプス市藤田	3月4日～3月5日	包蔵地外	1150	31	2.7%	扇状地	3.0	無	無	-	-	有 GL-3.0m	
南-4	南アルプス市藤田	2月16日～2月17日	包蔵地外	1550	91.8	5.9%	扇状地	1.3	無	無	-	-	有 GL-1.3m	
南-5	南アルプス市加賀美、田島	1月21日～1月29日	包蔵地外	16800	313.7	1.9%	扇状地	1.8	無	無	-	-	有 GL-1.8m	
南-6	南アルプス市田島	3月1日、3月8日	包蔵地外	2250	81	3.6%	扇状地	2.8	無	無	-	-	有 GL-1.5m	
南-7	南アルプス市大御	2月24日～2月25日	包蔵地	2780	62	2.2%	扇状地	3.0	無	有	-	中世 弥生	有 GL-1.3m	
南-8	南アルプス市燕沢	10月26～10月28日	包蔵地外	3720	69	1.9%	氾濫原	2.5	無	有	-	-	有 GL-0.5m	近世の遺物は出土したが、流れ込みと判断。
富-1	富士川町小林	8月25日	包蔵地外	1930	16	0.8%	氾濫原	3.0	有	有	GL-0.3m	近世	有 GL-2.8m	
富-2	富士川町殿勝寺	2月17日～2月19日	包蔵地外	3530	66.1	1.9%	扇状地	2.4	無	有	-	縄文	無	二次堆積内からの出土と判断。
富-3	南巨摩郡富士川町高下	5月12日	包蔵地外	2400	48	2.0%	氾濫原	3.0	無	無	-	-	無	

3-2 高等支援学校桃花台学園の正門改修工事に伴う試掘調査《狐原遺跡》

所在地 笛吹市石和町中川1400
調査期間 2020年4月15日(水)
調査面積 約5.4㎡ (調査対象面積105㎡)
担当者 上野桜・久保田健太郎・御山亮済・内田祥一

事業予定地点は周知の埋蔵文化財包蔵地「狐原遺跡」に含まれている。調査の結果、地表下約0.7～0.8m地点において、平安時代の文化層を確認した。地表下約0.7～0.8mは褐色砂質土の遺物包含層であり、9世紀代の甲斐型土器片を包含する。トレンチ東端部、地表下約0.8m地点では、明褐色砂質土上において深さ約5cm程度の落ち込みを検出した。落ち込み内から出土した土器片は、大きい傾向がある。全貌は不明瞭であり判断し難いが、遺構として認識しておきたい。

遺構確認画は事業用地内の現舗装面から2cm下方向の深さで検出している。したがって、事業用地の植栽帯以外のロータリー舗装範囲(第3回網掛け部分)は、舗装の施工により文化層が削平されている可能性が高い。ただし、遺構下部が残存している可能性があるため、当該範囲についても保護措置が必要であり、事業用地全域について保護措置が必要であると判断した。



調査地点位置図(1/25,000)

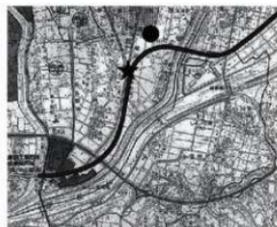
3-3 新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事に伴う試掘調査《福部遺跡・田通遺跡・包蔵地外》

所在地 甲府市落合町地内、下殿治屋町地内、白井町地内
調査期間 2020年4月27日～6月9日、6月11日、
2021年2月16日～3月5日
調査面積 約2945㎡ (調査対象面積76,000㎡)
担当者 上野桜・久保田健太郎・御山亮済・高野玄明・
内田祥一・高左右裕

新山梨環状道路東部区間Ⅱ期工事は、甲府市落合町から笛吹市石和町広瀬に至る総延長約5.5kmに及ぶ4車線(当道2車線)道路の整備事業である。事業地内落合西IC～東油川ICにかけては、橋梁に跨る高架道路(一部盛土)で施工される。埋蔵文化財センターでは、当事業に係り2017年度から埋蔵文化財試掘調査を実施している。2019年度には平等川左岸において、古墳時代の集落跡(北畑南遺跡)を地表面下約5m地点で発見した。このことを受け、低湿地の埋蔵文化財に関して、的確かつ安全に捕捉するための調査方法を模索しながら埋蔵文化財調査を実施している。

2020年4月27日から5月25日まで行った落合町内の調査では、中世以前の水田跡を検出した。
2020年6月2日から6月4日にかけて実施した白井町の試掘調査では、遺構・遺物は検出されなかった。
2020年6月3日から6月9日までの調査は、中世の炭化物集中地点と、中世の土器を発見した。このため、本調査対応が必要と判断した。
2020年6月11日の調査は、4月27日から5月25日の調査で確認された水田跡の広がりを確認することを目的に調査を行った。調査の結果、水田が広がっていることが分かり、本調査が必要と判断した。

2021年2月16日から3月5日までの調査は、福部遺跡と田通遺跡の間において試掘調査を実施した。調査の結果、福部・田通遺跡で発見された水田跡は見つからなかった。また、溝跡や畦跡が発見されたが、近代の所産である可能性から発掘調査の対応は不要と判断した。



● 対象地
★ 福部遺跡
● 田通遺跡

調査地点位置図(1/25,000)

3-4 国道141号電線共同溝工事に伴う試掘調査及び立会調査《山影遺跡》

所在地 蕨崎市藤井町南下線地区
調査期間 2020年11月26日(木)～12月25日(金)
調査面積 約90㎡(調査対象面積6,100㎡)
担当者 深澤一史、岩永祐貴



調査地点位置図(1/25,000)

山影遺跡が位置する塩川右岸の氾濫原は、塩川の浸食によって形成された茅ヶ岳山麓の断崖と七里岩東側の片山に挟まれた沖積低地となっている。山影遺跡の周辺は、一見低平な土地に見えるが旧河道の微低地と、自然堤防の微高地が入り組んだ地形を呈する。遺跡はこうした微高地上に多く形成されており、山影遺跡も、七里岩東側の片山裾から東にかけて緩やかに傾斜した微高地に立地する。

国道141号線の北側に設定した第3号トレンチと第4号トレンチからは、遺構と遺物を検出した。

そして、本年度工事となる範囲は、埋蔵文化財が発見されたトレンチに近接する箇所があるため、立会調査を行うこととなった。工事立会の対象となったのは、掘削深度が12m以上の4ヶ所の特殊部である。すべての特殊部において、遺構・遺物は認められなかった。

試掘調査の結果、第3・4号トレンチから遺構・遺物を検出した。これらは、これまで確認されている山影遺跡から広がるものと考えられる。このため、工事に先立ち発掘調査を行う必要があると判断した。

3-5 国道411号和戸アクセス道路建設工事に伴う試掘調査《包蔵地外》

所在地 甲府市和戸町394-4、404-11、976外
調査期間 2021年2月8日(月)～10日(水)
調査面積 約121.4㎡(調査対象面積2,472㎡)
担当者 高野玄明、數野優



調査地点位置図

本事業は、国道411号和戸アクセス道路建設工事に伴うものである。調査地点は、甲府盆地の北縁、南北に延びる甲府市のほぼ中央部に位置する。調査地点は、秩父山系の八人山と、大蔵経寺山との谷間を源とする大山沢川により形成された扇状地緩斜面から低地の平坦部へと変換した面に立地する。調査地点の北側は、古代から中世の遺跡が集中している地域である。

調査は、試掘予定地が市道などにより分断されているため、調査区東側からA区・B区・C区とし、0.25mクラスの重機により合計8本のトレンチを幅1.5～2.1m、長さ7.0～13.0m、深さ1.7～2.0mの規模で設定し、調査を実施した。

各トレンチとも地表下0.7～2.0mまで、A・C区からは砕石(客土)等による宅地造成等の痕跡が窺え、B区では明褐色や暗褐色を呈するシルト層や青灰色や暗緑灰色の砂層が安定した状況が見られたが、遺構や遺物の確認はできなかった。また、一部のトレンチからか湧水も見られた。

調査の結果、今回の対象地からは、遺構や遺物の確認はできず、埋蔵文化財の保護措置は必要ないものの、周辺部の遺跡の状況を踏まえ、さらに東側へ延びる事業予定地の試掘調査を継続的に行う必要があり、特に注意が必要な地域である。

3-6 国道20号法雲寺橋災害復旧事業に伴う試掘調査《包蔵地外》

所在地 大月市初狩町下初狩570-1、573-1
調査期間 2020年10月1日(木)、2021年1月7日(木)
調査面積 約34㎡(調査対象面積904㎡)
担当者 深澤一史、敷野優、久保田健太郎、岩永祐貴

調査地点は笹子川右岸に位置し、笹子川によって形成された河岸段丘上であるが、周辺と比べ若干低くなっている。笹子川左岸側には氾濫原が形成され水田帯が広がる。その北側に段丘が形成され、法雲寺や周知の埋蔵文化財包蔵地である房氏遺跡(縄文時代)がある。

また、大月市教育委員会によると、調査地点の南西にある宮川周辺には、明治40年に土石流の被害を受けた記録がある。

人力による試掘調査の結果、第6層内から陶器片を発見した。この第6層は水成堆積と想定できるため、原位置を留めているとは考えにくい。ただし、当調査地点は、甲州街道及び下初狩宿に近接しており、近世の遺跡が存在する可能性がある。また、第7層は安定した粘質土層であり遺構面である可能性が残っている。

こうしたことから、令和3年1月7日にバックホウを用いて再度試掘調査を実施した。

試掘調査の結果、笹子川の氾濫堆積上に水田の造営された後、新規の水田造成が繰り返された土地利用の履歴が判明した。現代の水田造営の際には、約50cmの厚さ客土が盛られている(南から北に向けて傾斜していることから、客土は南側が薄く、北側が厚い)。

10月の調査で出土した江戸時代の土甎の底部片は水田耕作土からの出土であると結論できる。このことから、「山梨県埋蔵文化財事務取扱要綱」に従い、埋蔵文化財保護の措置は不要と考えられる。ただし、氾濫堆積の上に水田造営が繰り返されたという上記の履歴が明らかとなったことは、当該地域の近世以降の土地利用の歴史を知る成果の一つといえる。



調査地点位置図(1/25,000)

3-7 一級河川濁川河川改修事業に伴う試掘調査《甲府城下町遺跡》

所在地 甲府市城東二丁目地内
調査期間 2021年3月1日(月)~3月10日(水)
調査面積 約660㎡(施行対象面積2,092㎡)
担当者 深澤一史、久保田健太郎

本調査対象地一帯では、山梨県中北建設事務所による一級濁川河川改修工事と和戸竜王線建設工事が予定されている。当該エリアは、甲府城下町遺跡の範囲と近世から近代にかけて深町の河岸があった地域であることから、工事に先立ち埋蔵文化財の試掘・確認調査を実施することとした。

調査地点は、甲府城下町旧三ノ堀の内側と濁川沿い北側である。19箇所の試掘・確認調査トレンチの内、朝気通町に面したT1、T2からは江戸時代中期(18世紀)の溝跡や木製構造物の一部が、笠森稲荷神社敷地跡のT13からは井戸跡が、三ノ堀東側隣接地のT14、T15からは、三ノ堀東側の法面が、三ノ堀西側隣接地のT16からは江戸期の可能性のある地下室跡がそれぞれ発見された。

今回の調査で発見された遺構はいずれも三ノ堀や舟運に関連する当該地の歴史的背景を理解する上で重要なものといえる。また、三ノ堀の法面跡は、堀の規模や構造を明らかにする上で不可欠の発見であった。これらを鑑み、T1、T2を含む土地、T13から15にかけての土地、T16周辺及び堀の範囲や構造に関する情報が得られる可能性のあるT16からT19にかけての堀沿いについては、埋蔵文化財の保護の措置が必要であると判断した。



調査地点位置図(1/25,000)

3-8 曾根丘陵公園内U字溝改修工事に伴う 立会調査《東山南遺跡、上の平遺跡》

所在地 甲府市下向山町地内
調査期間 2020年6月23日(火)
調査面積 約6.5㎡
担当者 高野玄明、高左右裕

曾根丘陵公園内において、一部のU字溝の歪みが激しいことから、一部のU字溝について改修工事が行われることとなった。周知の埋蔵文化財包蔵地である、東山南遺跡と上の平遺跡に隣接していることから、立会調査を実施することとなった。

工事内容は、既存のU字溝の改修であり、掘削の必要範囲とする長さ5.0m×幅1.3m、深さ0.7mの規模で行われる。調査は土層の断面観察と遺構や遺物の有無の確認を行うこととした。

調査の結果、深さ0.7mは既存のU字溝設置に伴う碎石層(層土)による造成の範囲内であり、遺構や遺物の確認はできなかった。このため、今回の改修工事に関して、埋蔵文化財の保護措置は不要と判断した。



調査地点位置図(1/25,000)

3-9 曾根丘陵公園改修整備事業に伴う 立会調査《上の平遺跡、岩清水遺跡》

所在地 甲府市下向山町1271、甲府市下曾根町565-4
調査期間 2020年11月12日(木)、11月18日(水)、
11月25日(水)
調査面積 約30㎡
担当者 吉岡弘樹、宮里学、深澤一史、岩永祐貴

曾根丘陵公園改修整備事業に伴い、周知の埋蔵文化財包蔵地である上の平遺跡と岩清水遺跡の範囲内を工事することとなった。対象地は、本調査が実施された地点であり、かつ既設設備がある地点である。こうしたことから、試掘調査ではなく立会調査によって遺跡への影響を確認することとなった。

調査地点は、甲府盆地南部にある曾根丘陵に所在し、上の平遺跡は丘陵の台地上にあり、岩清水遺跡は丘陵の裾部に位置する。周辺地域は、曾根丘陵の台地上と裾部に遺跡が密集する地域であり、国指定史跡鏡子塚古墳をはじめ東山南遺跡等が所在する。

地点1において、あずまや設置に伴い掘削し、地下様相を確認した。この地点は本調査実績があり、その時の埋め戻しによる、碎石が確認された。

地点2においては、既存の石敷を撤去し、あずまやの設置のための掘削を実施した。最大掘削深度である地表下1mまで掘削したところで、基質支持で、中礫が混じる二次堆積の土層を確認した。この二次堆積は、既存設備建設に伴うものと判断し、遺構・遺物が認められなかった。

今回の工事立会によって、新たに遺構・遺物は検出されなかった。このことから、埋蔵文化財の保護措置の必要はないと判断した。



調査地点位置図(1/25,000)

3-10 舞鶴城公園施設改修工事(木柵改修) に伴う立会調査《史跡甲府城跡》

所在地 甲府市丸の内一丁目49番地(舞鶴城公園内)
調査期間 2020年5月12日(火)、15日(金)
調査面積 約0.09㎡
担当者 依田 幸浩

本工事は、舞鶴城公園の木柵を取り替えるもので、昨年度の2020年3月6日(金)に工事に先だって施工業者が該地点において試掘を行い、工事立会を行っている。試掘の状況は、全て既掘の範囲であり、遺構・遺物は確認されなかった。今回の立会は、工事の施工にあたり、試掘時よりも新たに掘削された地点において実施したものである。

今回立会を行った新規掘削範囲において、遺構・遺物は確認されなかったことから、史跡の保護措置の必要はないと判断した。



調査地点位置図(1/25,000)

3-11 舞鶴城公園照明改修工事に伴う 立会調査《史跡甲府城跡》

所在地 甲府市丸の内一丁目49番地(舞鶴城公園内)
調査期間 2020年6月8日(月)、10日(水)、17日(水)、
7月3日(金)
調査面積 約1.065㎡
担当者 依田 幸浩、長田 猛

本工事は、舞鶴城公園の石垣等ライトアップ用の照明を改修する工事である。工事内容は、既設の照明を撤去し、同じ場所に新しい照明を設置するもので、ほぼ既掘の範囲を掘削するが、一部新規の掘削を伴うため立会調査を実施することとなった。

今回立会を行った掘削地点において、遺構・遺物は確認されなかったことから、史跡の保護措置の必要はないと判断した。



調査地点位置図(1/25,000)

3-12 国道20号電線共同溝設置工事に伴う 立会調査《霞堤》

所在地 甲斐市富竹新田1186-1ほか
調査期間 2021年2月8日(月)～2月22日(月)
調査面積 約80㎡
担当者 宮里学、深澤一史、岩永祐貴



調査地点位置図(1/25,000)

国道20号電線共同溝設置工事に伴い、周知の埋蔵文化財包蔵地である霞堤の範囲内を掘削することとなった。本工事は、国道20号線の車道内を掘削するため、昼間の工事は渋滞等、周辺への影響が大きくなり、また危険なため夜間工事として実施された。

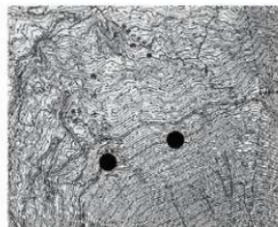
調査地点は、甲斐市富竹新田に所在する。当該地点は、釜無川による扇状地扇頂部と考えられ、東・南に向かって若干傾斜している。堤は、堤防の下流端を解放し、次の堤防の上流端を堤内に延長して雁行するように造られた不連続の堤防である。造られた時期は正確には分からないが、貞享2年(1685年)以前には成立していたとする研究成果がある。

2月15日に立会調査を実施したところ、地表下13mから石列を検出した。北東から南西へ延びるラインとなる。地表下1.5mまで下げ断面を確認したところ、人為的に積んでいる様相がうかがえた。また、堤防内の構成材と考えられる丸石は、大きさが拳大で揃い、粗砂混じりである。石積みの上にはモルタルが混じるコンクリート舗装をして歩道として通行できる様相であった。時期については、遺物が出土しておらず正確に判断できないが、近現代と考えられる。検出した遺構は、旧堤防とこれを利用した道路の可能性が大きい。この日以降、22日まで旧堤防が続く様相であった。

今回の工事立会によって、旧堤防の可能性のある遺構を発見した。工事に伴い、破壊される範囲について記録を取る措置を取った。今後も周辺において、電線共同溝の設置工事が継続されることから、埋蔵文化財の保護措置を取る必要がある。

3-13 富士山御中道線道路(歩道)標識工事に伴う立会調査《史跡富士山》

所在地 山梨県南都留郡鳴沢村富士山8545-1
調査期間 2020年10月16日(金)、20日(火)
調査面積 約9㎡
担当者 依田幸浩、長田猛、小池準一



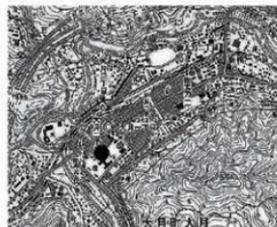
調査地点位置図(1/25,000)

本工事は、富士山の富士スバルライン五合目から御庭付近にかけての御中道歩道整備区間において、標識類(誘導・解説標識等)を設置するものである。御中道は、富士山の五合目から六合目あたりを一周する富士講信者による修行の場として利用された道で、特別名勝富士山の指定範囲内にある。史跡富士山としては指定されていないが、富士山信仰に関わる道であることから、埋蔵文化財の有無を確認するための立会調査を実施することとなった。

掘削地点の土壌は、地表直下から底面まで暗赤褐色シルトの地山であり、遺構・遺物は検出されなかった。このことから、埋蔵文化財の保護措置の必要はないと判断した。

3-14 県立都留高等学校内電線移設工事に 伴う立会調査《包蔵地外》

所在地 大月市大月2丁目11-20
調査期間 2021年3月11日(木)
調査面積 約6㎡
担当者 深澤一史、岩永祐貴



調査地点位置図(1/25,000)

調査地点は、大月市大月に所在し、県立都留高等学校の敷地内である。当該地点は、管子川と桂川が合流地点周辺にあり、桂川の右岸に位置する。遺跡は桂川が形成した河岸段丘上に立地する。大月遺跡は、県立都留高等学校建設に伴って、6回の本格的な調査が行われており、縄文時代から奈良・平安時代の遺構・遺物が検出されている。

電柱移設が予定される2ヶ所で、工事立会を実施した。最大掘削深度は2.3mである。第1号トレンチ(1m×3m)は、地表下1.8mまで攪乱を受けていた。その下層は安定した黒色土であった。この層から遺構・遺物は検出されなかった。また、最大掘削深度まで達したが黒色土が続く様相であり、地山までは達しなかった。第2号トレンチ(1m×3m)も地表下2m付近まで攪乱を受けている状況であった。その下層は、第1号トレンチと同様に黒色土が堆積する様相であり、遺構・遺物ともに検出されなかった。このことから、埋蔵文化財の保護措置の必要はないと判断した。

第三章 県内の概況

1 届出件数と内容

2020年度、県内の埋蔵文化財調査による届出件数については、法92条:5(8)件、法93条:200(163)件、法94条:31(27)件、法96条:1(0)件、法97条:0(0)件、法98条:0(0)件、法99条:283(252)件である。届出の総件数は520(450)件である。前年度と比較すると、民間主体の開発工事のうち、発掘調査を要するものについて、増加傾向が認められる。また、法99条により周知の埋蔵文化財包蔵地外において発掘調査を実施した地点から、新たに6つの遺跡が発見され、9つの遺跡で範囲の拡大が図られた。

※()内数字は前年度。

なお、当県では2007年度より、文化財保護法施行令第5条に基づき県教育委員会が行うこととされている文化財保護法第93条の指示及び第94条の勧告に係る権限について、一部移譲を行っている。これにより、埋蔵文化財専門職員が設置されている市町については、工事立会・慎重工事などの軽微な指示・勧告を行うことができるようになっている。そのため、ここに報告する2020年度における法第93条・94条の届出数は、県の権限に基づく指示・勧告の件数と同義であることを補足しておく。(都留市教育委員会については、権限の一部委譲をしているもの、2020年度については、協議の結果、工事立会・慎重工事の指示を要する14件の届出を県で処理している。)

2 発掘調査

2020年度に実施された県内の発掘調査件数は、292(266)件(発掘調査学術調査等含む)となっている。その内訳は、県による調査が42(34)件、市町村教委による調査が241(224)件、民間調査組織による調査が5(8)件である。発掘調査の原因は、道路19(19)件、鉄道33(22)件、河川0(0)件、学校建設2(4)件、集合住宅8(7)件、個人住宅93(70)件、工場3(2)件、店舗7(10)件、個人住宅兼工場又は店舗2(1)件、その他建物12(20)件、宅地造成41(40)件、土地地区画整理0(1)件、公園造成3(1)件、ガス・電気・電話・水道5(2)件、農業基盤整備事業23(16)件、農業基盤整備事業以外の農業関係事業1(0)件、土砂採取0(0)件、その他開発34(18)件、自然崩壊0(0)件といった緊急調査と、学術調査0(2)件、保存目的の範囲確認6(2)件、遺跡整備0(3)件があった。緊急調査では、リニア中央新幹線建設工事に伴う試掘調査を昨年度と同規模で実施したことや、3つの遺跡で発掘本調査が始まったことが特筆される。個人住宅や太陽光発電(その他開発に含まれる)については、昨年度より増加傾向にある。 ※()内数字は前年度。

3 県・国指定有形文化財(考古資料)及び県・国指定史跡

2020年度は、新たな指定はなかったが、国指定史跡御勅使川田堤防の管理団体として、菰崎市と南アルプス市が指定された。現在、山梨県内の県指定有形文化財(考古資料)は46件、県指定史跡は27件、国重要文化財(考古資料)は6件、国指定史跡は16件である。

4 発掘調査の成果と保存整備事業

2020年度に実施された292件のうち、多くは、記録保存を目的とした開発事業に伴う緊急調査であるが、それぞれ地域にとって重要な成果が報告されている。北杜市武川町地内では、圃場整備事業に伴って、平安時代から中世にかけての遺跡が継続的に発掘調査されている(中山工区内遺跡群)。同じく北杜市大泉町の姥神遺跡では、縄文時代中期の完形の釣手土器が出土し貴重な事例となった。菰崎市においても、前年度より引き続き御座田遺跡の調査が行われ、中世から近代にかけての村落の様子がより鮮明になりつつある。甲府市では、甲府城下町遺跡の町屋地区において、道路事業に伴い調査が継続されている。一方で、甲府市の盆地底部にあたる落合町地区では、新山梨環状道路建設事業に伴い、田通遺跡・福部遺跡が地表下2～3mより発見されている。笛吹市では、花鳥山遺跡の発掘調査が行われ、縄文時代前期の多数の住居跡が発見された。山梨市では、阿弥陀堂遺跡や十王堂遺跡・井尻氏屋敷跡の調査で平安時代の集落などが確認された。甲州市では、千手院前遺跡の範囲が拡大され、発掘調査の結果縄文時代の住居跡が多数発見され

た。中央市では、大島屋宇山平遺跡において、王塚古墳の二重目の周溝が検出されている。富士川町では、リニア中央新幹線事業に伴い旧利根川堤防遺跡の発掘調査が行われ、地域防災の歴史が明らかとなった。富士河口湖町では、金山遺跡の発掘調査が行われ、古墳時代前期の土玉を大量に埋納した遺構が発見された。

このほかに、史跡内で保存を目的とした発掘調査が6件ある。甲府市の国史跡甲府城跡愛宕山石切場跡の調査では、欠穴をもつ石材が確認された。韮崎市では、新府城跡の発掘調査が行われ、本丸虎口の様子が明らかとなった。

5 発掘調査体制

埋蔵文化財専門職員について、県では文化振興・文化財課4名、埋蔵文化財センター19名(うち教員派遣交流3名、非常勤嘱託2名)、博物館2名、考古博物館5名である。市町村では、甲府市9名、富士吉田市2名、甲州市1名、大月市1名、韮崎市3名、南アルプス市5名、笛吹市7名、甲斐市3名、北杜市5名、山梨市1名、中央市2名(昭和町を兼務)、上野原市1名、身延町1名、富士河口湖町2名、それ以外の町村は0名、となっている。県と市町村の合計人数は73名となっている。

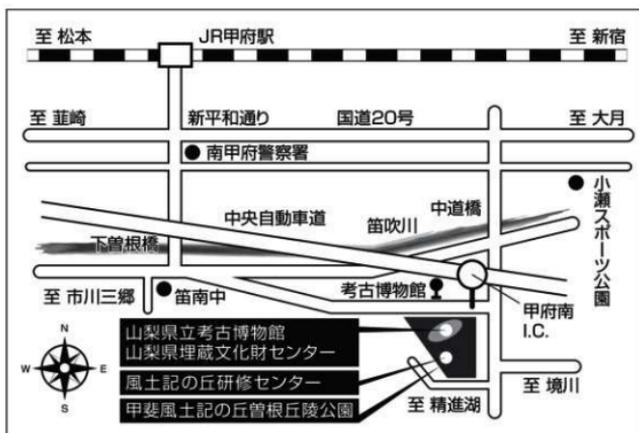
近年、専門職員の新規採用など埋蔵文化財担当者が増員される事例もみられるが、現状の埋蔵文化財担当者の配置率は、27市町村のうち15市町村で約55%であり、平成15年度の61%(64市町村のうち39市町村)と比べ減少している。文化財保護法の改正に伴い、文化財を活かしたまちづくりを推進する市町村がある一方、文化財専門職員の未配置となっている自治体では、文化財行政に支障をきたす事例も発生している。また、いくつかの自治体では、職員の定年退職に伴い、欠員補充として新規に職員を採用したことにより、経験や実績の浅い若手職員の割合が増加傾向にある。このように、埋蔵文化財行政をとりまく環境は大きく変化しており、実情に見合った適切な専門職員配置やその育成は大きな課題である。行政としては、記録保存のための発掘調査の実施にとどまらず、これまでの膨大な調査成果の蓄積を適切に保存・研究・活用し、歴史を活かした地域づくりに資するなど、多様な業務を実施し、国民の期待に応えることが求められている。

2019年度の埋蔵文化財発掘調査件数・事務処理件数(市町村ごと)

	甲府市	富士吉田市	都賀町	山梨市	大月市	韮崎市	南アルプス市	北杜市	甲斐市	笛吹市	上野原市	甲州市	中央市	市川三郷町	身延町	南都町	富士河口湖町	昭和町	西桂町	西桂町	山北町	山中湖村	富士河口湖町	小倉村	丹波山村
発掘本調査数	3	0	0	3	1	2	1	7	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
包蔵地内での 試掘調査	24	0	0	20	1	43	15	33	17	5	1	7	4	0	0	1	3	1	2	0	0	1	1	0	1
包蔵地外での 試掘調査	3	0	0	8	0	0	12	7	1	0	2	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
93 乗届出数	166	9	12	64	4	57	128	48	84	123	0	40	3	0	0	4	3	1	4	0	0	1	0	3	0
94 乗届出数	19	1	0	10	2	11	10	4	15	6	0	5	3	1	0	0	2	1	2	0	0	0	0	1	0

※県が実施した調査数は除く

文化庁文化財第二課 2021『埋蔵文化財関係統計資料—令和2年度—』掲載用の基礎資料より



●路線バスご利用

甲府—豊富(中道橋経由)「考古博物館」で下車

●高速バスのご利用(2時間)

バスタ新宿 …… 甲府南回り、甲府行「中道」下車・徒歩5分

甲府南インター下車・徒歩10分

年 報 37

印刷日 2021年 12月 6日

発行日 2021年 12月 10日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター

山梨県甲府市下曾根町923

TEL 055-266-3016

FAX 055-266-3882

E-mail : maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷所 青柳印刷株式会社

山梨県甲斐市長塚526

TEL 055-277-5511
